

# さいたま言語研究

## 第1号

### 【研究論文】

- 「もう」はどのようにフィラーになったか  
—フィラー化の経路とフィラーの機能— 小出 慶一 … 1
- 次元形容詞「深い」にかかわる経験的基盤について 金 善花 … 12
- 複合動詞「～こむ」について  
—日中対訳の観点から— 李 潔 … 28
- 日本語と韓国語のフィラーの対照研究  
—「まあ」と「ㄱㅇ」を中心に— 金 聖実 … 40
- テイル用法の一研究  
—中国人日本語学習者の習得状況を巡って— 張 瑞深 … 51
- 「ていく・てくる」と“去・来”の日中対照研究 陳 湘奉 … 59

### 【2016年度研究大会】

- 研究大会の報告および発表の要旨 … 73

2017年3月

さいたま言語研究会

## 刊行の辞

これまでの本学の言語研究活動を可視化するために『さいたま言語研究会』を立ち上げました。

2003年4月に埼玉大学大学院文化科学研究科博士課程が創設されました。文学・歴史・地域事情などの分野と共に日本語学・日本語教育研究の拠り所が生まれました。以来、教員・院生の創意工夫により研究態勢も整い、外国人学生・研究者にも知られるところとなりました。理論研究なども加わり言語の総合的研究機関に発展しつつあり、アジアを中心に国際的な研究・教育に貢献しています。

埼玉大には、この博士課程創立以前から、国語学、日本語学、日本語教育学、英語学、理論言語学へのたゆまない貢献がありました。散発的な埼玉グラマーワークショップの活動もその一つでした。

これら諸分野の流れを汲みつつ、全学の、そして更には国際的な言語研究の拠点となるべく、「さいたま言語研究会」という新しい名の下に第一歩を踏み出したいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

仁科 弘之（埼玉大学大学院人文社会科学研究科）

# 「もう」はどのようにフィラーになったか

## —フィラー化の経路とフィラーの機能—

小出 慶一

### 【キーワード】

もう、フィラー、用法の拡張の過程

### 【要旨】

「もう」は、副詞、感動詞、フィラーという3つの側面を持つが、本稿では、副詞からフィラーへと性格を変えていく過程を検討した。「もう」の基本用法は、「ある事柄が、事態把握時点から見て、実現想定時点より早く実現したという認識を表す」というように「実現時」「事態把握時点」「実現想定時点」の3つの時点で捉えることができる。この用法がフィラーへとつながっていくわけであるが、その過程で2つのことが指摘できる。ひとつは、この3つのポイントが、時間から量、量から心理的な状態へと対象領域を広げることである。もう一つは、基本義にあった「ある基準を超える」という意味素性が、拡張の過程でも保持されていることである。こういう変化が可能になった背景には、「もう」が「あなたって人はもう」のような用法の「もう」が、対応するモダリティとの結びつきが緩むことによってかのようになったのではないかということ述べた。

## 1. はじめに

副詞から派生したと考えられるフィラーのひとつに「もう」がある。フィラーとしての使用頻度も高く、場面にもよるが、女性話者の場合「なんか」「あのー」に続いて3位の使用頻度があるという調査もある(Nagura1979)。本稿では、フィラー「もう」の派生過程、派生のメカニズム、発話の中でフィラー「もう」は何を表しているかを考えてみたい。

## 2. 「もう」の用法区分

副詞としての「もう」についてまとめた考察を加えているものとして、森田(1989)、渡辺(2001)がある。森田、渡辺で挙げられている例を参考に次のような用法区分を立てた。①～③は両者とも挙げているもの、④～⑥は渡辺が挙げているものである。

### (1) 本稿での区分

- ①仕事はもう済んだ。
- ②もう来るだろう。
- ③もうだめだ。
- ④もう500万円あればなんとかなる。
- ⑤もう嬉しくてたまりませんでした。
- ⑥あなたって人はもう。

この6つの用法について以下に検討する。

### 3. 「もう」の意味

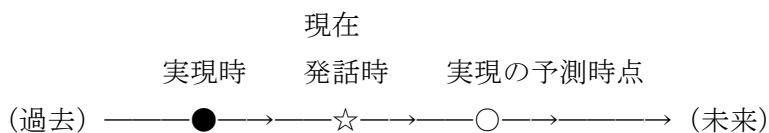
#### 3-1 用法①（「仕事はもう済んだ」）

森田、渡辺が基本的な用法であると見ているのは、「仕事はもう済んだ」「宿題はもう済ませてしまった」というような用例である。ある事柄が発話時点ですでに実現しているということを表すものである。

この用法は、実際に起きた事柄を叙述するという具体性を持っている。また、「え、もう？」と問いかけたときの「もう」の意味は、「すでに、なにかが実現してしまったのか」という意味を表すことになると思われる。その点で、他の用法より無標性が高く、基本的な用法であると認めることができよう。

渡辺（2001）は、この用法について、次のように図式化して捉えている。●は事柄が実現した時点、☆が発話時、○が事態の実現が想定された時点である。記号などは変えているが、3つの時点の関係は元のままである。

#### (2) 渡辺（2001）



「もう」は、渡辺の言い方によれば、「事態Pの実現が予測以上に早い」（渡辺 2001 : 137）という話者の認識を表すものであり、図 i は、その間の3つの時点の関係を表している。

ただ、「発話時」という捉え方は、それが「発話時現在」を意味するならば、必ずしも正確ではないように思われる。次の例では、「もう」は、「発話時」の認識に関わるのではなく、そのコトガラを把握した時点での認識ではないかと思われるからである。「発話時点」は、「実現想定時点」の前後に現れることが可能である。

- (3) a. 昨日、教室に入ったときには、もう、みんな来ていた。
- b. 10年前、ここを通ったとき、もう、橋は完成していた。

過去の経験について「もう」が使われる場合に、「もう」の記述に必要なのは、次の3つの時点である。

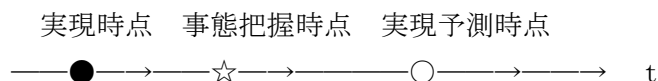
(4) 「もう」の記述に必要な時点

- A. 事柄が実現した時点
- B. 事柄が、実現想定時よりも前に実現したと認識した時点
- C. 実現が想定された時点（このCを「事態把握時点」と呼ぶことにする。）

この3つの時点は、 $A < B \leq C$ の順に並んでいる。発話時現在としての「発話時」は、B以降であれば、どこにも入りうる。そこで本稿では、「もう」の基本的な用法を、次のように捉えることにしたい。

(5) 「もう」の基本用法（用法①）

「もう」は、ある事柄が、事態把握時点から見て、実現想定時点より早く実現したという認識を表す。図中の「t」は「時間」を表わす。以下同様。



3-2 用法②（「もう来るだろう」）

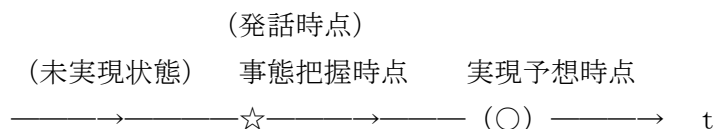
①が既実現の事柄を対象としていたのに対して、②は未実現の事柄が焦点になっている。用例は次のようなものである。

- (6) a. もう来るだろう。
- b. もう帰ってくるころだ。
- c. ??もう帰ってくるころだった

未実現の事柄が、近々成立するだろうという予測を述べるものである。この用法では、事態把握時点と発話時点が重なる。(6c)のような用法は不自然になる。②の「もう」は、発話時と事態把握時が重なり、発話時での判断を表す点が特徴である。その点が①と異なる。

(7) 用法②

「もう」は、事態把握時点（この場合は発話時）で未実現の事態の実現が近いという認識を示す。



### 3-3 用法③（「もうだめだ」）

用法①・②はコトガラ成立の時間的關係が焦点だったが、③は時間に伴う状態変化が焦点になっている。

- (8) a. もうだめだ。  
 b. もうおなかがいっぱいだ。  
 c. 足が痛くて、もう歩けなかった。

③の「もう」は、何らかの状態が過去のある時点で限界に達した、あるいは、限界に近づいており、それ以上その状態を維持することが困難であるという認識を表すものである。「もうX」のXには、限界に到達した状態を表す表現が来る。「終わりだ」、「だめだ」、「もう～できない」などである。

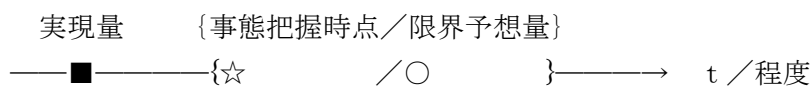
③では、時間の推移は背景に退いているが、「もう」のない表現（8b´）がある時点で捉えたコトガラを表すのに対し、「もう」のある表現（8b）には時間の推移のあることが見て取れる。その点で、③の用法も時間概念を含むものであることがわかる。

- (8) b. 足が痛くて、もう歩けなかった。  
 b´ 足が痛くて、φ 歩けなかった。

また、③では、「限界と予想される状態」が「事態把握時点」と重なっているか、極めて近い未来にある。

#### (9) 用法③（「もうだめだ」の意味）

「もう」は、あるコトガラの量が、時間の推移に沿った事態把握時点から見て、すでに限界に達している、あるいは限界に近づいているという認識を表す。{ }は重なっていることを表す。



### 3-4 用法④（「もう 500 万円あればなんとかなる」）

この用法の特徴の一つは、名詞と結びつくということである<sup>1</sup>。①～③の用法は、用言

<sup>1</sup> ただし、この用法の場合は、他の用法とアクセントが異なる。「もう少し」「もうちょっと」「もう一度」などは、一語化しているためか、「もう」のアクセントは「低高」となっている。そのアクセントは、一語性の低い「もう 30 人」「もう 500 円」などにも現れる。用法①から派生したと見ることもできるだろうが、別語意識がどこかに生じているのかもしれない。

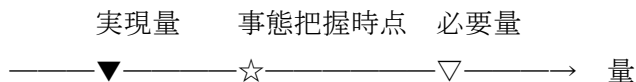
と結びついたものであるために時間概念と結びついていたとも言えるが、④の「もう」では時間性は後退し、量概念が前面に出てきている。

- (10) もう 500万円あれば、なんとかなる。  
 (11) もう 一人、必要だ。

「もう 500万円」「もう一人」は、「必要量」との差を示すものであり、渡辺（2001）も指摘するように、3つのポイント（下の図中の▼、☆、▽）の関係は、用法①と同じである。関係は同じであるが、時間軸が、実現量と必要量を示す軸に変換されたものとなっている。また、事柄の把握の仕方は、②と同じで、事態把握時点で実現されていない量に焦点を当てる形になっている。

- (12) 用法④（「もう 500万あればなんとかなる」の意味）

「もう」は、あるコトガラについて、現在の実現量に追加されるべき量を表す。すでに実現された量と実現予定量の差が「もう X」の X で示される。



### 3-5 用法⑤（「もう嬉しくて」）

この用法の例は次のようなものである。

- (13) もう 嬉しくてたまりませんでした。  
 (14) このアイスクリーム、もう、最高。

⑤の「もう」は、心的な状態について、それが限界に向かい、後続の感情形容詞「嬉しい」「最高だ」が限界（想定実現度合い）を越えている、あるいは、限界に近いことを含意する。このコトガラの捉え方は、用法①と同じものである。

- (15) 用法⑤（「もう嬉しくて」）

ある感情が、限界近くまで高揚した状態にあることを表す。



### 3-6 用法⑥（「あなたって人はもう」）

この用法は、副詞でなく、感動詞と見るのが妥当かもしれない。高橋（2005）によれ

ば、感動詞は、次のような特徴を持つものとされる。

- (16) a. 話し手の発話時現在の感情、情動、心情を表す。
- b. 文の他の要素から独立している。
- c. 1語で文となりうる。前後の文から独立している。
- d. 活用がない。

例を挙げれば次のようなものである。

- (17) あなたって人はもう。
- (18) もう、うそばっかり。

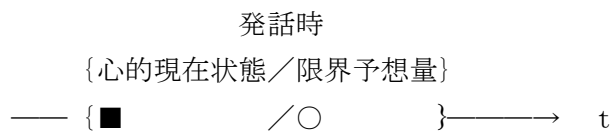
この例の「もう」は、単独で発せられても、それ独自の意図を相手へ伝えることができると思われる。(17)、(18)の「もう」は、相手への苛立ち、非難といった感情だろうが、「もう」と言うだけで、その感情を表現することはできるとと思われる。

「もう」は、怒り、苛立ちなどの否定的な感情を表すことが多いと思われるが、さらに、その感情が高揚し、頂点に近づいている、あるいは、達していることを示すものになっている。

⑤では、文内の述語などと結びついてその程度を表すものであったが、感動詞として⑥では、それ独自の感情価を持つようになっている。①～⑤のように、なんらかの事態の推移を事象として捉えて表現するものと異なり、「もう」は発話時における、感情の直截的表出であり、時間的な要素、事態把握という認識の仕方は含まれない。あえて図示すれば下のようなになる。

#### (19) 用法⑥

「もう」は、発話時に、話し手の感情が高揚し、限界状態に近づいていることを表出することば。苛立ちなど、対象に批判的な心的状態を表す。



## 4. フィラーとしての「もう」

### 4-1. フィラーとしての「もう」とは

次にフィラーの「もう」についてみてみたい。本稿では、フィラーを仮に次のように規定する。

#### (20) フィラーの規定



- a. 談話形成、行動形成のための心的活動に実時間的に連動して、無意識に発せられる音声。
  - 1. その音声は、その心的活動のあり方にしたがって形式を変える。
  - 2. その音声は、談話参加者を意識して発せられるものと、談話参加者に関係なく発せられるものがある。
  - 3. その音声は、通常、当該言語の音韻、語や句の範囲を越えない。
- b. 発話（文）、談話の構成要素とならない。
  - 1. 発話（文）の要素とならない。
  - 2. 単独で発話（文）相当の表現とならない。
  - 3. 談話構成、談話運用上の機能を持たない。

この規定からすると、「あの一、すみません」「えー、本日はよくおいでくださいました」の「あの一」「えー」のように、発話の切り出しという談話機能を持つものは、談話標識であってフィラーではないということになる。

## 4-2 フィラーとしての「もう」の性質

### 4-2-1 データ

この稿では、フィラーの用例は、「日本語会話データベース」（北九州大学上村研究室）から収集した。以下が、本稿でフィラーと考える「もう」の例である。

- (21) 2: あの一、中野区の、えー、上鷲宮という所なんです。  
1: あ一。(2: はい) じゃあ、中央線で。  
2: ええ。中央線の阿佐ヶ谷から、(1: うん) バスで、そうですねえ、(1: ああ一) 五分ぐらいですか。  
1: あ、(2: はい、ええ) そうですね、いや一もう、あの、ここはちょっと離れてますので、お時間がかかるんじゃないかと思って。(ITf)
- (22) 1: いやあの、日本人がよく働きすぎというのは(2: ええ) 言われてるんですけども、(2: ええ) このように、休暇もね、(2: ええ) もうせいぜい一週間とか、(2: あ、いえ) ええ、殆ど同じ時間、あの、にす、(2: ええ) あの一、日頃とか、(2: ええ、ええ) そのようなその、働きすぎ、(2: ええ) 働き振り、また、遊び方、に関して、どういう風に、(2: そう一ですね) 考えていらっしゃるんですか? ITf
- (23) 1: じゃ、保育園しだいという。  
2: そうですね(1: ああ)。あと今、学校ってあの、/学業だけじゃなくて(1: はい) あの精神的に子供の分を背負ってあげる事が(1: はい) 非常に重くって(1: はい) それがちょっとあの背負いきれないところが(1: うんうん) ありましてね(1: ああ、はい)。ええもうあの、家庭の中から救い出

せないていうか、おうちをなおせないていうかそこまで面倒を見るとちょっとしきれないので(1: うーん) 自分でもちょっとしきれないかな、ていうふうに感じていて。(1: あー) ええ。(K J f)

(24) 1: あのサッカーといえば、(2: はい。) 数年前にあの、Jリーグができて、(2: はい。) もうなんか、どうしたのかと思うぐらいの人気でしたけれども、(2: はい。) 最近は、やはり、ちょっと押されぎみっていうか、他のスポーツに、(2: うーん。) 昔ほどは、言われなくなっただけですけども、その辺ー、どうなんでしょうね。どういう風に。(K N m)

(25) 1: どうですか? (2: ええーあの一) 受験生のお母さんとしては。

2: 6月30日までもうクラブ筋でまいりましたので(1: はいはい) で水泳クラブに(1: ああーああ) 所属しております、したけれども6月30日の大会で一応引退いたしまして(1: ハハハ) であの/切り替えて(1: ええ) お勉強というあの一(1: ええ) 感じで。まだ一あの一本腰ではございません。(M T f)

(26) 1: ね、に、男性が8割、(2: はい) 女性が2割。(2: はい) はあ、そうですかー。女性は大変ですねー、じゃあ。

2: 大変ですねー、本当に、もう、なんでか分からないですけど、あの、(1: うん) 友人一のまあ、女の子なんかも、もう何人かいいかげんに嫌気がさして、(1: うん) 就職活動自体をやめてしまった者も、いるので、(…)(M O f)

(27) (なぜ日本語教師をしているのかを問われて)

2: ははは。ええ、あの一ええ、は、学生時代に(1: うんうん) 私があの一フランス語のええ、クレディフという方式の(1: うんうん、ええ) あの一オーディビジュアルの(1: ええ、ええ) あれを受けましてもうカルチャーショックを受けて(1: うん) あのごく楽しかった、あーあの一記憶がありまして、その当時あの一日本語バージョンで(1: うん) 私の方はこれを、あの、国文科だったものですからやってみたらおもしろいと思ったんですが/ (…)(M A f)

#### 4-2-2 フィラー「もう」の形式面での特徴

これらの「もう」の形式面での特徴として、次の点が指摘できる。

(28) フィラー「もう」の特徴

- a. 発話冒頭には現れない。
- b. 呼応する修飾先が特定できない。修飾先があるように見えることもあるが、明確な呼応はない。

では、このような「もう」は何を表しているのか。このことを考えるためには、どのように派生したかという派生経路、そして、どのような機能を持つに至ったかという意味の変遷、この2つを考える必要がある。

#### 4-2-3 フィラー「もう」の派生経路

まず、派生経路について見てみる。

なお、「もう」の用法①～⑥を見直してみると、実現されたコトガラについて述べる「もう」と、未実現のコトガラについて述べる「もう」の2つのタイプのあることがわかる。

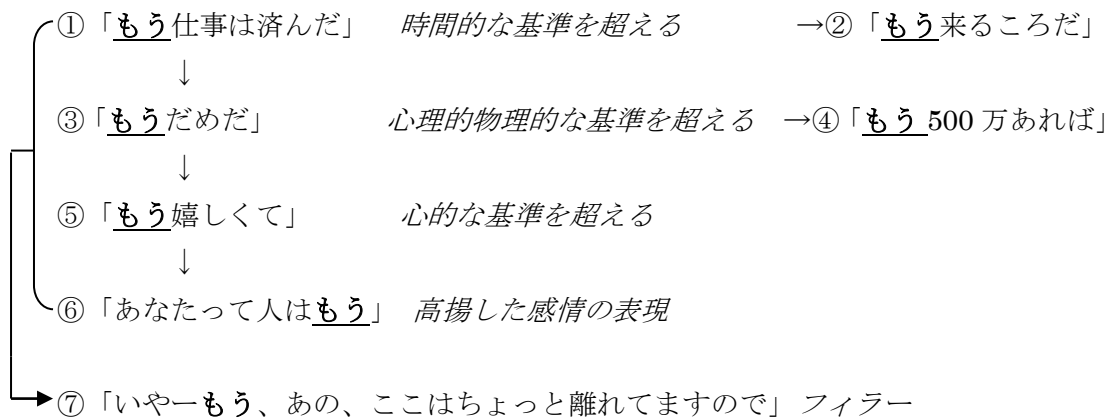
##### (29) 「もう」の用法のタイプ

A：既実現のコトガラについて述べるもの ①・③・⑤・⑥

B：未実現のコトガラについて述べるもの ②・④

この2つの系列のあることを含めて、派生経路を、仮に図示すると次のようになる。

##### (30) フィラー「もう」の派生



副詞用法は、「①時間→③物理量→⑤心理状態」と広がりつつ、その基準値あるいは限界を超えることを表すことで共通している。⑥感動詞は、そのような限界状態表示が内化したものである。

#### 4-2-4 フィラー「もう」は何を表すか

フィラー「もう」が、どの用法から派生したかを特定することは困難であるが、少なくとも、副詞・感動詞用法から何を受け継いだか、それがどのように発話形成の中に現れているかの概略は述べるができると思われる。

フィラーとしての「もう」の機能面での特徴は、それが感情性を持つことである。なにかしらの気持ちの高揚の中で語られる発話に現れることが観察される。表現の面では、「もう」のあとには、感情性の高い表現が現れる。たとえば、「もうクラブ一筋で参りま

したので」(25)、「本当にもう、なんでか分からないんですけど」(26)「もうカルチャーショックを受けて」(27)のようなものである。「もう」は、これらのことが特筆すべきことだという発話姿勢に連動して現れている。それが、統語的な関係のつかみにくい形で現れるところに、フィラーとしての性格がある。

#### 4-2-5 フィラー化の契機

またもうひとつは、特定の要素との結びつきがないという点である。「もう」がフィラー化していくメカニズムのひとつは、統語的な対応の弛緩化だと思われる。これは、「あの」や「まあ」など、他のフィラーについても観察されることであるが、対応の弛緩化とは、指示や呼応という2つの要素で構成される統語形態において、その1つ（通常は受け手側）が不明確になることによって起こる現象である。

「もう」は、副詞用法においては、①「もう済んだ」・③「もうだめだ」のように、「ある基準点を越えた事態」になった表現（「済んだ」「だめだ」）と対応していた。その対応が緩くなり、対応先が不明確になることで、フィラー化が進んだのではないかと思う。

### 5. おわりに

この稿では「もう」の用法の推移を見てきたが、もう少し抽象化して見直してみると、その用法の拡張は、語の意味のあり方を巧みに利用して行われていることがわかる。

「もう」の意味は次の要素からなっていた。

- a. 3つの時点の関係
- b. 意味領域

今仮に、ABCは時間概念を含んだもの、 $\alpha\beta$ は心的なもの、abcは量的概念に転換後のものとし、その表現の焦点部分を実線で、背景化された部分を点線で表わすとすると、次のように図式化できる。

(31) 「もう」の意味変化のパターン

- ① A——B——C
- ② A···B——C
- ③ A——B···
- ④ a···b——c
- ⑤  $\alpha$ — $\beta$ ···
- ⑥  $\alpha/\beta$

ここには、意味の可能性が詳細に分析され、利用されていることが見て取れる。

と同時に、基本的な用法(①)の枠の中で、意味的な推移が起こっていることが見て取れる。意味の広がりというものは、無制限に起こるのではなく、このように、一定の枠の中で起こるものだと思われる。

最後に、今後の問題であるが、「もう」「まあ」など、単純な音韻構造を持つものは、ヒトの叫びや唸り声から語彙化されていった可能性はないだろうか。ひらがなでは「うーん」と書かれるが、これも音声的には/m/である。この稿では、自立語がフィラー化するという仮定の上で議論したが、その逆の可能性はないのか、フィラー的なものから語彙化することはないのか、興味のある問題である。今後の課題としたい。

### 参考文献

森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店

渡辺実 (2001) 『さすが！日本語』 筑摩書房

Nagura, Toshie (1997) “Hesitations(discourse markers) in Japanese.” 『世界の日本語教育』 7, pp.201-218. 国際交流基金

### 追記

本稿は、小出 (2008) 『現代日本語における語の意味・用法の広がりに関する研究』 の第2部7章『もう』を大幅に修正改稿したものである。

(埼玉大学名誉教授)

## 次元形容詞「深い」にかかわる経験的基盤について

金 善花

### 【キーワード】

次元形容詞、イメージスキーマ、容器メタファー、経験的基盤、投影

### 【要旨】

本研究では、次元形容詞「深い」の空間的用法と非空間的用法における認知プロセスと動機付けについて考えてみた。その結果、「深い」の意味拡張において、容器のイメージスキーマによる拡張と具体的な経験による動機付けが深くかかわっていることが分かった。また、「深い」の意味が比喩的視点の投影のプロセスを介して、物理的な空間領域の容器のスキーマから、社会的な空間領域、心理的な空間領域としての容器のスキーマへと拡張されていく際、容器のイメージスキーマ自体が変容するのではなく、トポロジー的に継承されることが分かった。

### 1. はじめに

外部世界は、認知主体の視点から独立して存在するわけではない。われわれは、外部世界に関しなんらかのイメージを作り上げ、このイメージを介して外部世界の対象を把握する。言葉は、外界に埋め込まれた人間の認知のプロセスのあらわれであり、その背後には、外界の知覚と理解にかかわるさまざまな主観的な認知モードが反映されている。言葉の世界を把握していく際、この認知主体の外界認知にかかわる経験的基盤が重要な役割をになう。

本研究では、日本語の次元形容詞「深い」の空間的・非空間的用法における認知プロセスについて考察し、「深い」の空間的用法と非空間的用法における認知プロセス、動機付けが一貫しているのかどうか、もし違いが存在するとすれば、どのような違いなのかという観点から、具体例<sup>1</sup>を通して考えてみたいと思う。

### 2. 先行研究

#### 2-1 日本語の次元形容詞のグループにおける「深い」と先行研究

日本語には 8 組の次元形容詞「長い・短い」「高い・低い」「深い・浅い」「遠い・近

---

<sup>1</sup> 日本語の例は、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)、NINJAL-LWP for BCCWJ、筑波ウェブコーパスから収集し、中国語のほうは、北京大学中国语言学研究中心語料庫 (Center for Chinese Linguistics PKU)、語料庫在线 <http://www.ncorpus.org/> から収集。

い」「広い・狭い」「太い・細い」「厚い・薄い」「大きい・小さい」が存在する。その中で、ベクトル性（ある基点からの一方方向）を含んでいる点で、「高い・低い」「深い・浅い」「遠い・近い」が区別される。この3組の次元形容詞の内、「遠い・近い」は、対象物そのものに備わった性質ではなく、2つの対象、或いは地点間の隔たりを表す点で、区別される（国広 1971）。「高い・低い」「深い・浅い」は1次元量を表す点で共通しているが、水平面を基準にする場合、水平面に垂直の方向で、上向きにみた長さの大きいのが「高い」であるのに対して、水平面から下向きにみた長さの大きいのが「深い」とあるという関係にある（西尾 1972）。

「深い」の先行研究には、国広（1971）、西尾（1972）、久島（2001）、小出（2000）が挙げられる。

国広（1971）は、「深い」について、ものの内部に関係があり、基準面とほぼ直角の方向ということが問題であることから、意義素を基準面からものの内部に向かってはいりこんでいく隔たりが標準値より大きいと指摘している。

西尾（1972）は、表面から底までの垂直にみた下方への長さが大きい、基準の面からみて、ずっと下のほうに位置していると解釈している。前者は、もののもつ量的な性質を表す意味で、後者は、ほかのものとの距離によってそのものの位置を示す意味であると述べている。

久島（2000）は、機能面を考慮し、次元形容詞をモノ類と場所類<sup>2</sup>に分けて整理し、「深い・浅い」を場所類の次元形容詞として扱っている。久島（2000）で、「深い・浅い」は場所と地点については、水平面を基準として鉛直という方向、下方という片方向の線的な量及び距離を表し、準場所については、本体の表面を基準とし、垂直という方向、内部へという片方向の線的な量及び距離を表すと述べている。

小出（2001）では、「深い」を空間的用法と非空間的用法に分けて記述し、空間的用法の典型性条件について、(1) 何らかの本体に属する内部空間を対象とする。(2) 内部空間内での伸びの方向は、必ずしも下方とは限らず、水平方向もありうる。(3) 内部空間の開閉部を基準点にするが、基準点は明確でない場合が多い。(4) 内部空間は、安定性／堅牢性を持つ、開口部以外が閉じられたものでなくてもよい、密であってもよいという特徴を持つと述べている。

このように、今までの「深い」に関する研究は、語彙の意義特徴に焦点をおき、言語的な知識の記述と分析が中心になっているため、意味の捉え方の実態が明瞭だとは言えない。

そこで、本研究では、先行研究を踏まえながら、認知言語学の視点から、認知主体の

<sup>2</sup> 久島（2000）では、場所について、次のように定義している。(a) 周囲の自然と一体で、独立していないもの。人や物に存在空間を提供する機能を持つ。周囲から独立していてもまわりがあるが、人や物に存在空間を提供する機能を持つもの。(b) 《準場所》とは、本体表面の一部を占めているものである。(c) 《地点》とは、《場所》がどこに位置するかという観点から捉えたものである。

身体による経験的基盤との関連で、「深い」の認知プロセスや動機付けについて考えてみたいと思う。具体的には、3で、アンケートを通して、「深い」の空間的用法における認知度の高い対象を抽出してから、相応する具体例を収集し、身体的経験や認知モードについて考える。4で、「深い」の非空間的用法の具体例を収集・考察し、身体的経験と認知モードについて考える。5で、「深い」の空間的用法と非空間的用法に見られる認知モードが一致しているのか、身体的経験や動機付けに変化があるかどうか、その相違点について考える。

### 3. 次元形容詞「深い」の空間的用法

「深い」の空間的用法において、認知度の高い対象を抽出するために、実質的なアンケート調査を実施し、表1のような結果が得られた。

#### 調査方法

- ・調査目的：「深い」の広い意味の中で、典型性の高い意味を取り出すために、認知度の高い具体物を列挙してもらう。
- ・調査対象：日本語母語話者 100人
- ・調査形式：アンケート用紙による設問形式をとる。アンケートを開始する前に、具体物について例を挙げて説明してから、回答してもらう。

〈サンプル〉

設問：「深い」ということばを聞いて、すぐ思いつく具体物を思い出す順番に、3つ書いてください。

答： 第1位：○○、 第2位：○○、 第3位：○



No.	具体物	第1位	第2位	第3位	出現頻度 <sup>3</sup>
1	海	61	16	6	83
2	谷	6	11	9	26
3	湖	9	9	5	23
4	川	3	11	9	23
5	森	2	6	14	22
6	穴	3	10	6	19
7	井戸	3	6	6	15
8	池	3	5	4	12
9	プール	4	3	4	11
10	沼	2	5	4	11
11	溝	1	2	4	7
12	傷	0	1	6	7
13	洞窟	0	3	3	6
14	谷底	2	0	2	4
15	霧	2	0	2	4
16	トンネル	0	2	2	4
17	どんぶり	0	3	1	4
18	山	2	0	2	4
19	箱	0	3	1	4
20	皿	0	3	1	4

表1 日本語の次元形容詞「深い」に関する調査結果

次元形容詞「深い」の調査結果から、くぼみのある容器のイメージ<sup>4</sup>を持つ対象が多く見られることが分かる。容器とは、一つの開閉部を持ち、他の面が閉ざされている入れ物を言う。

- ・ 「容器」には、以下のような特徴がある。①空間的境界線によって「内側」と「外側」という領域ができる。②容器の外側から内側へ、あるいは内側から外側へ、内容物（content）を出し入れする。③容器も内容物も、ともに「物体」である。

<sup>3</sup> 本研究では、合計出現頻度が3以上（3を含む）の事例を対象とする。

<sup>4</sup> イメージは、具体的な経験にもとづいて形成される心的表象の一種である。

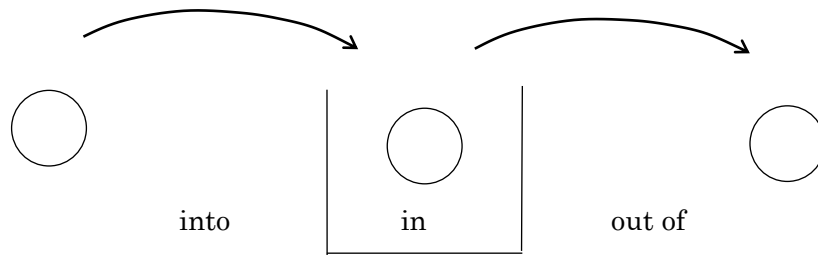


図 1<sup>5</sup>

(谷口 2003 : 27)

容器の形を持つかどうか、容器の特徴を持つかどうかによって、表 1 で挙げられた「深い」の認知対象を、次のように分類することができる。

① 容器の形を持ち、容器の特徴を持つ事物

[1] 「海、湖、川、穴、井戸、池、プール、沼、溝、洞窟、どんぶり、箱、皿」

② 容器の形を持たないが、容器の特徴を持つ事物

[2] 「谷、森、山、霧、トンネル、谷底」

③ 容器の形を持つが、容器の特徴を持たない事物

[3] 「傷」

この中で、「海、湖、川、穴、井戸、池、プール、沼、溝、洞窟」のような移動不可能な容器事物が 210 例挙げられ、「谷、森、山、霧、トンネル、谷底」のような事物が 64 例、「どんぶり、箱、皿」のような携帯可能な容器事物が 12 例、「傷」が 7 例挙げられた。

① 容器の形を持ち、容器の特徴を持つ事物

[1] 「海、湖、川、穴、井戸、池、プール、沼、溝、洞窟、どんぶり、箱、皿」

容器の形を持ち、容器の特徴を持つ事物[1]は、アンケート調査で 210 例挙げられ、認知度が一番高い。[1]の対象は、一つの開閉面を持ち、他の面が閉ざされた内部空間を持つ事物であり、はっきりとした空間的境界線を持っている。「～の中に入る(入れる)」あるいは「～の外へ出る(出す)」のような内容物の出入りに関連する表現もできる。したがって、[1]の事物を、容器の形と容器の特徴を持つ容器事物と言えるだろう。容器事物[1]の内、「海、湖、川、穴、井戸、池、プール、沼、溝、洞窟」のような対象は、地面と固定的な関係を持つ移動不可能な容器事物であるのに対し、「どんぶり、箱、皿」のような対象は、携帯可能な容器事物である。

また、[1]の容器事物には、認知主体の視界が底まで届かず、閉ざされた空間内での視界が悪い特徴が見られる。

<sup>5</sup> 図の順番は本論でふりつけたものである。

- (1) 深い海の中は太陽の光がとどかないために、ライトがついています。  
(海底下に広がる未知の世界「地下生命圏」)
- (2) その波に溺れて、波の底に足をとられていた。それは、暗く、深い沼である。  
(大庭みな子 浦島草)
- (3) もちろん、飛び込んだと思われたプールの底は真っ暗で何もあるはずもなかった  
のである。  
(不思議館～不気味で神秘的な話～)

例 (1) (2) (3) で見られるように、認知主体が直接経験しているわけではないのに、「海、沼、プール」の内部空間は真っ暗で、視界が悪いと認識されている。それには、容器事物の内部空間には、太陽光が届かないという経験が働いていることが考えられる。容器事物の内部空間の視界が悪いのは、〈見立て〉複合モデルの〈光モデル〉<sup>6</sup>にもかかわっている。

## ② 容器の形を持たないが、容器の特徴を持つ事物

### [2] 「谷、森、山、霧、トンネル、谷底」

[2]に見られる対象は、容器の形を持っているとは言えない。「トンネル」は二つの開閉部を持ち、「谷底」は平面であるため、内部空間を持っていない。「谷、森、霧、山」は、必ずしも一つの開閉口を持っているとは言えないし、部分的に周囲と繋がっているため、はっきりとした空間的境界線を持つとは言いにくい。

- ・ しかし、あるものが、他のものとはっきり分離していなかったり、境界が明らかでないような場合でも、われわれはそれらをたとえば山であるとか街角であるとか生け垣というようなカテゴリーに分類する。物理的な現象をこのようなやり方でとらえる必要があるのは、われわれの持っている目的——たとえば、山の所在位置を突き止めたり、街角で人と会ったり、生け垣の刈込みをやるといった目的——を満足させるためである。人間の目的というのは、人為的に境界を設定して物理現象をわれわれ人間と同じようにはっきり個別化することを——境界面をもつ存在物化することを——われわれに要求するのである。

(Lakoff,G.,and M.Johnson 1980 : 37-38)

このように、人為的に境界を設定する際、われわれは自分自身を内と外という方向性

<sup>6</sup> 複合的視点からみた見立てのモデルには、光モデル、分解モデル、把握モデル、着地モデルが考えられる。〈光モデル〉の見立てを反映する表現としては、「光が当たる」、「明らかになる」、「明るみになる」、「白日の下にさらされる」などの例が考えられる。これにたいし、「その問題が分かる」、「謎が解ける」のような表現は、〈分解モデル〉の見立てにもとづく表現の典型例と言える。「彼の意図を把握する」、「問題のポイントをつかむ」のような表現は、〈把握モデル〉の見立てにもとづいている(山梨 1998 : 133)。

を持つ一つの容器と考え、表面によって境界を接している他の物理的物体にも投影して考える。だから、それらの物体もまた内側と外側をもった容器であるとわれわれはみなす。このような投影により、はっきりとした空間的境界線を持たない[2]の事物に、容器のイメージが作り上げられ、容器の特徴も付与されることが考えられる。

- (4) 月山の雪渓で父は強風にあおられて、深い谷に転げ落ちそうになったことがあった。

(斎藤茂太 いま家族しか子供を守れない)

- (5) ACへ登り返す体力と気力が残っていない場合、そこは雪も消えた深い谷底で風も当たらないので、ビバークしてもいいと考えていた。

(田中昌二郎 より高く、より遠く、未知を求めて)

例(4)の「谷に転げ落ちる」のような出入り関連の表現から、谷を容器として認識し、例(5)の「風もあたらない」ことから、谷底を底に、その上部の空間領域を内部領域として、目に見えない壁を持つ容器として認識されることが考えられる。

「山、森、トンネル」も、「人が山(の中)に入る、探検隊が森(の中)に入る、新幹線がトンネル(の中)に入る」のような出入り関連の表現から、容器として認識されていることが分かる。「深い山、深い森」は、人があまり行かない未開拓の空間領域を言うが、これは、容器の入り口から遠く離れているところは深いという経験の投影だと考えられる。

「霧」には、次のような具体例が見られる。

- (6) 出発時は深い霧の中。

(Yahoo!ブログ 2008)

- (7) 冬の北イタリアは冷たく深い霧にすっぽり包まれる。

(石本正『絵をかくよろこび』)

- (8) ラングドンはそれを見つめながら、今宵を覆っていた霧が一段と深くなるのを感じた。

(ダン・ブラウン『ダ・ヴィンチ・コード』)

- (9) パフィオの自生地は湿地かそれに近い所、ないしは毎日深い霧が数時間はたちこめる所だ。

(江尻光一『洋ラン栽培コツとタブー』)

例(6)では、「霧」が「内」と「外」の空間を持つ事物と認識されていることが分かる。しかし、その境界線は、霧の濃度が上昇し、周囲との境界線が目立つ時に限り、一番はっきりしていると言える。例(7)(8)では、何かを包んだり、覆ったりすることから、容器の空間的包容性が窺える。例(9)では、「数時間たちこめる」ことから、「霧」

は山や河のように恒常性を持たず、一時性を持つことが分かる。「霧」の濃度が上がり、視覚的に境界線がはっきりしてきた段階で、「深い」と認識されるという時間の制限があるため、認知度も比較的に低いだろう。この一時性の特徴は、「深い」と認識される他の事物と大きく違う点でもある。

[2]の事物にも、底まで視線が届かず、視界の悪い特徴が見られる。

(10) 川が見たい、川の向こうが見たいのに、霧が深くて見えないの。

(神沢利子 『空色のたまごは』)

(11) 三合目までは深い森の中で視界もなく、なんとなく暗い感じの道を下っていく。

(津野祐次 『中央アルプスを歩く』)

(12) オートバイのライトをハイビームに切り替えて点灯すると、反対側から車両の来ないことを確認して一気に真っ暗なトンネルを潜り抜けた。

(臼井基也 『彼岸祥風』)

(10) (11) (12) では、「川の向こうが見えない」「森の中で視界もなく」「真っ暗なトンネル」のような表現から、[2]の事物も視界が悪く、非可視的な性質を持つことが分かる。[2]の事物には、容器の入り口から遠く離れているところは深い、内容物の濃度が上がると、視界が悪くなる、という経験的基盤が働いていることが分かる。

③ 容器の形を持つが、容器の特徴を持たない事物。

「傷」のような事物は、はっきりとした境界線を持つため、容器の形は持っていると言える。しかし、「傷」は一時的な外力による産物で、何かを入れるための空間ではないため、本当の容器だと言にくい。

(13) キズが深かったので、血をもう少し出した方が良かったからです。

(Yahoo!ブログ 2008)

(14) ひかりはファリードにふりそそぎ、そうして深い傷はみるまになおったのです。

(村山早紀 『シェーラひめのぼうけんダイヤモンドの都』)

(15) 僕は岩にガリっとこすって結構深いキズつきましたが、あまり変わりませんよ。

(Yahoo!知恵袋スポーツ 2005)

例 (13) で「血を出す」ことから、「傷」は内部空間を持つ事物と認識されていることが分かる。例 (14) の「みるまになおる」、例 (15) の「こすってきずがついた」ことから、本来存在しないものが、外部作用によって生成され、時間の推移によって消失するという、一時性が確認できる。[2]の「霧」に見られる一時性と類似しているが、「霧」は自然現象による一時的な事物であるのに対し、「傷」は外部作用による一時的な事物である点で、違いが見られる。

このように、「深い」の空間的用法では、容器である認知主体の身体を、空間内に存在する事物に投影し、容器のイメージを作り上げ、また、経験的基盤の投影によって認識する認知プロセスが窺える。

#### 4. 次元形容詞「深い」の非空間的用法

「深い」の空間的用法では、容器のイメージスキーマによる意味拡張が見られた。容器のイメージスキーマは、意味の拡張に関係しているだけではなく、このスキーマに対する主体の視点の投影によって、さらに主観的な意味の拡張を可能としている。

- ・ 一般に、容器のスキーマを問題にする場合には、限定された空間領域への出入りが問題にされる。

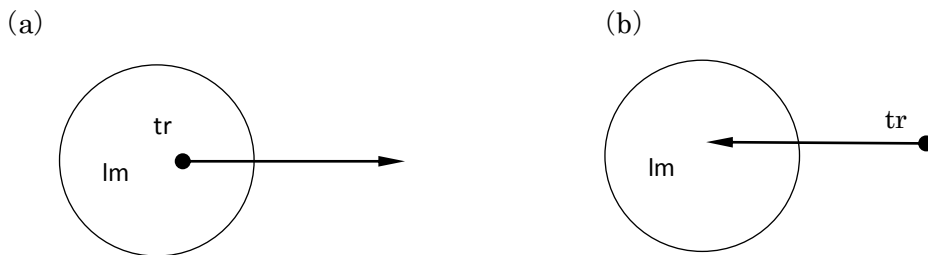


図 2

しかし、ある限定された空間領域への出入りは、容器のスキーマにかかわる複合的な視点の一つにすぎない。状況によっては、この空間領域の内（ないしは外）に何が存在するか、その存在が出入りモードにどのようにかかわっているのか、この内と外の境界領域のどちらに焦点が当てられているのか、この空間の境界領域を内から見ているのか外から見ているのか、といった複合的な視点が、言葉の意味の拡張に際し重要な役割をになう。  
(山梨 2000 : 144)

西尾 (1972) は「深い」と結びつく具体名詞を 6 つに整理している。

- ① 視覚的なもの (色、闇、影など)
- ② 時を表すもの (秋、冬、夜など)
- ③ 関係に関連するもの (関係、つながり、仲、交際など)
- ④ 感情を表すもの (愛情、悲しみ、怒り、信頼、疑い、失望、敬意、感動、印象など)
- ⑤ 知的な作用を表すもの (考察、考え、理解、思想、教え、意味、理由、事情、原因、わけ、経緯など)
- ⑥ その他 (罪など)

次では、西尾 (1972) の整理を参考に、6 種類の具体名詞の具体例を見ることにする。

- ① 視覚的なもの (色、闇、影など) には、次のような具体例が挙げられる。

(16) その山の緑も、黒に近いような濃い深い色である。

(NHK「聖徳太子」プロジェクト『聖徳太子信仰への旅』)

(17) 彼が目を凝らしても、肉眼で見えるのはときたま不鮮明になる画面のぶれや暗示的な光の明暗効果、つかのま深い影のなかを走りすぎる動きくらいだった。

(セオドア・ローザック『フリッカー、あるいは映画の魔』)

(18) 羽交い締めにされた体の感覚も消えて、やがて、自分という人間の意識さえも深い暗闇に飲み込まれた。

(藤原真莉『姫神さまに願いを』)

例(16)の「深い色」は、植物の緑の色を言う。植物の色は、芽生えの初期は鮮やかで薄い緑の色をしているが、時間の経過によって、色素の沈着が生ずるため、色は少しずつ暗くなり、濃くなっていく。布などを色染めする際にも、色染めを重ねるほど、濃度が上がり、周囲との境界線がはっきりしてくる。このように、はっきりとした境界線を持ち、色という内容物を積み重ねられる特徴から、「深い色」を容器として見立てることができるだろう。また、例(17)の「深い影の中を走る」、例(18)の「深い暗闇に飲み込まれる」のような表現から、「影」と「闇」は内部空間を持ち、物体の出入りが可能な容器として認識されていることが分かる。容器内の内容物の濃度の上昇につれ、その重量も増えて、結局徐々に容器の底に落ちてくる経験から、色のような視覚的な対象は、濃いほど落ち着きを感じられると考えられる。

五感と関連する例には、「深い味」も見られる。

(19) 時間差で辛さと後味が感じられる深い味。

(「平尾由希の ON AIR Kitchen」 Powered by Ameba)

(20) むしろ味噌の甘みと梅の酸味がマリアージュし、もう一段階深い味になる。

(小山薫堂のニッポンの食べる調味料をつくるプロジェクト)

(21) なかなかグロテスクだが、こうして熟成させることが深い味を生み出す秘訣。

(全国中央駅めぐり・泉中央駅)

例(19)(20)(21)から分かるように、「深い味」とは、いろんな旨味がバランスよく含まれ、時間をかけて熟成させた後味を持つ美味しい味を言う。ここで、「深い味」はいろんな味の内容物によって詰められた容器として見たてていることが分かる。「深い味」に入っている内容物が多いほど、味が深くて美味しいと感じられる。このように、視覚的なものや味覚的なものの認知活動にも、五感による経験的基盤が働いていることが分かる。

② 時を表すもの(秋、冬、夜など)

(22) 今はもうその声を運ぶためにのみ走っているというように列車は深い夜の中を走っています。

(新川和江詩集)

時間を表すものは、時間軸において、始点からの線の距離が大きいという意味を持つ。四季という容器には、「春、夏、秋、冬」という内容物が入っている。一年の始まりが春から始まることから、容器に見立てても、容器の開閉部から「春、夏、秋、冬」の順番に並んでいると考えられる。容器の開閉部と近い「春、夏」には、光が当てられ、明るくて暖かいイメージを持つが、容器の底に近い「秋、冬」には、光が当てられないため、視界が悪い。したがって、「春、夏」は「秋、冬」より暖かく、明るいイメージを持つことが考えられる。「深い昼」と言わないのも、同じであろう。

③ 関係に関連するもの（関係、つながり、仲、交際など）

(23) 配偶者の事、子供の事、家の事、それぞれの深い関係の中に、人々は生きている意味を見いだしているんです。

(子どもの本の森へ/ウェブリブログ)

(24) 言葉を超える、深いつながり、親近感や、信頼感を自然に抱いてもらえます。

(自宅で学べる宝地図ムベ-)

(25) 会社人間の持っている社会的ネットワークは、強くて深いつながりを狭い範囲で濃密に持っている。

(日経 CSR プロジェクト)

例 (23) (24) (25) から分かるように、関係に関連する「深い」は「複雑な、込み合った」などの意味に近く、事態の表面だけでは捉えられず、表面的な観察を越えたところまで伸びているという意味を表す。これは、おびただしい内容物が密に詰められ、底までの見通しが悪いという経験が投影されていると考えられる。

④ 感情を表すもの（愛情、悲しみ、怒り、疑い、失望、敬意、感動、印象など）

まず、「深い愛」の具体例を見てみよう。

(26) 今は櫻井先生のおかげで前よりも深い愛の中にいるようです。

(別れた彼ともう一度恋に落ちる！復縁必勝プログラム)

(27) ありがとう、僕を励まし、支え、深い愛で包んでくれて。

(ありがとうは光の言葉)

(28) また、楽しい深い愛に浸っている時に、ふと、非常に悲しい夢をみることがある。

(豊島与志雄 夢)

(29) しかし、そのささいな話しの中に、船越さんの深い愛がたくさん詰まっていると感じたのです。

(船越桂「個人はみな絶滅危惧種という存在」)



- (30) しかし、悪いことであつたとしても、それを信仰の目で見ると、どこかに神の深い愛が満ちあふれています。

(復活節第2主日)

- (31) 彼女の清らかな歌声は、さまざまな困難を乗り越えてかけがえのない一つの命を手に入れた母の喜びと、この詩に対する感謝と深い愛が込められており、聴くものの魂を揺さぶります。

(「わたしがあなたを選びました」)

- (32) これまた初孫に海より深い愛を注いじゃうんでしょうね。

(My hotelier 172 -ハロー！マイ・ベイビー)

例(26)(27)(28)では、認知主体を中に包み込み、愛というお風呂に浸かるような表現から、「深い愛」が容器事物として認識されていることが分かる。例(29)～(32)の「深い愛が詰まる」「深い愛が満ちあふれる」「深い愛が込められる」「深い愛を注ぐ」のような表現から、ここでの「深い愛」は容器として認識されるのみではなく、容器の内容物としても認識されていることが分かる。つまり、例(26)(27)(28)では、容器のイメージスキーマが前景化され、例(29)～(32)では、容器のイメージスキーマが背景化され、内容物のイメージスキーマが前景化されている。ここで、「深い愛」は容器物質<sup>7</sup>であることが分かる。

「深い愛」は表面に出さず、心の深いところにおいて、累積してきた純粋な感情が強いという意味を表す。このような捉え方は、累積してきた物質の量を測るためには、容器が必要となるが、容器の外に出ている物質には意味がなく、容器に入っている内容物の量が多いほど、価値が高いという経験が感情領域へ投影されていると考えられる。したがって、表に出さず、心の奥に積み重ねてきた感情は、本物であり、価値が高いと認識されるだろう。

次の具体例から、「深い悲しみ」も容器物質であることが分かる。

- (33) 深い悲しみの中に身を閉ざしてしまった自由。

(StarChild:十兵衛ちゃん2 ～シベリア柳生の逆襲～)

- (34) 協会は深い悲しみにつつまれた。

(社団法人京都府聴覚障害者協会-協会について)

- (35) その深い深い悲しみに沈んだ瞳を向けられた瞬間――。

(『今昔物語集』 京都せんべい おかき専門店【長岡京小倉山荘】)

- (36) 絶望的な深い悲しみに浸り、路地に腰掛ける少女は身体を斜めに傾けて、うつむいて佇んでいる。

(『散り行く花』(1919) 良い映画を褒める会)

<sup>7</sup> 容器にもなり、容器の内容物にもなるものを容器物質と言う(Lakoff & Johnson)。例えば、「水」はコップなどに入れると内容物になり、それに何かを入れると容器になる。

- (37) 深い悲しみに落ち込んでいる人にとっては思いやりのある、暖かい言葉は何よりも力強い励ましです。

(こころの便り)

- (38) そしていまだ多くの方々が行方不明となっていることに深い悲しみで一杯です。  
(～与える存在である自分への信頼～)

例(33)～(37)に見られる「深い悲しみの中」「深い悲しみに包まれる/沈む/浸かる/落ち込む」のような表現から、「深い悲しみ」を物質の出入り可能な容器として認識していることが分かる。例(38)では、「悲しみ」という気持ちが内容物としてたくさん詰められていることから、例(33)～(37)で前景化された器のイメージが、例(38)では背景化され、内容物が前景化されていることが分かる。

感情を表すものには、「愛、悲しみ」などのほかに、外部の刺激によって生ずる感情の具体例も見られる。

- (39) 心を揺さぶる深い感動を与えてくれる映画。

(子ども映画祭 | 児童健全育成推進財団)

- (40) 中島家の居間に飾られた一枚のお皿が、私に深い印象を与えた。

(劉徳有『時は流れて』)

「深い感動、深い印象」のような表現は、はっきりした特定の感情ではないが、強く感受されているという意味を表す。このような感情は、「深い愛」や「深い悲しみ」のように量的な累積による感情ではなく、外部の刺激によって作られる感情である。これは、「深い」の空間的用法の「深い傷」と類似性が見られる。「深い傷」は、外部の刺激によって形成される容器の形は、時間の推移によって治ったり、無くなったりする。

「深い感動、深い印象」のような感情も、認知主体の心という容器が、外部の刺激によって、一時的に感受される感情である。つまり、外部の刺激によって生成する点で、類似性が見られる。したがって、「深い感動、深い印象」のような感情は、空間的用法の「深い傷」の容器イメージスキーマが感情領域へ投影された用法と言えるだろう。

- ⑤ 知的な作用を表すもの(考察、考え、理解、思想、教え、意味、理由、事情、原因、わけ、経緯など)

- (41) こういう深い考察を入れておいたほうが、英語というものは、分かりがよいわけですし、書き換え時などに間違いが減ります。

(家庭教師田口の視点)

- (42) 悦子はあまり深い考えもなく、友達のつもりで軽く応じたのである。

(深谷忠記『指宿・桜島殺人ライン』)

(43) 共に生きるという共生の精神の根底に人間に対する深い理解があることは当然であろう。

(上田廣『共生の基礎知識』)

(44) エリスはイギリスの医者だが、文学と科学の問題に没頭し、なかなか深い思想を持っていた人である。

(北杜夫『どくとるマンボウ医局記』)

(45) 深い意味がこもった質問だった。

(バーバラ・デイリー『再会は命がけ』)

例(41)～(45)では、「考察、考え、理解、思想、意味」が容器の内容物として認識され、事態の表面だけでは捉えられず、表面的な観察を越えたところまで伸びているという意味を表す。考えや理解という内容物は、少しずつ累積され、一定の量になると、容器の底に落ちてくる。容器の中に浮いているのではなく、容器の底に着地していることから、安定性と価値が高いと認識されることが考えられる。このような捉え方には、複合的視点からみた見立ての着地モデルが働いている。

(46) 前から感じていたが、猪喰には、男具那にもいえない深い事情がありそうだった。

(黒岩重吾『白鳥の王子ヤマトタケル』)

(47) 脳のこうしたちょっぴりマヌケな性質には、じつに深い理由があるのです。

(池谷裕二『高校生の勉強法』)

例(46)(47)の「深い」は「詳しい、複雑な、込み合った」などの意味に近い。「深い事情、深い理由」は、事態の表面だけでは捉えられず、表面的な観察を越えたところまで伸びているという意味を表す点で、例(41)～(45)と類似しているが、おびただしい内容物が底に近づくほど、安定し、真実が隠れているという経験的基盤が働いていると考えられる。このように、同じ容器メタファーによる認知プロセスのなかでも、認識主体がどこに視点をおくかによって、働きかける経験的基盤が変わってくるのが分かる。

#### ⑥その他(罪など)

(48) 母が亡くなってからそんな事ばかりが思い出されて、後悔という悲痛な虚しさに深い罪意識を感じてきた。

(生きる)

(49) そうではなくて、自分の深い罪は償ってもつぐないきれないと感じることです。

(お講さまの法話原稿・10)

例(48)では、後悔しても取り戻せない罪悪感という意識を言い、例(49)では、「償ってもつぐないきれない」のような表現から、「深い罪」は法律的な裁きの対象となる罪ではなく、人間性や道徳に反する罪であることが分かる。つまり、人間性や道徳の領域を区切る境界線を超えたものとして、理解してもいいだろう。また、認知主体の持つ身体の容器性が、道徳などのような意識領域へ投影されていると解釈できるだろう。

#### 4. まとめ

##### 4-1 認知プロセスと動機付け

- ・ 人間の創造的な理解には、少なくとも次のような認知プロセスがかかわっている。
  - A.ある対象に関し具体的なイメージを作り上げて行くプロセス。
  - B.ある対象のイメージを他の対象に拡張していくプロセス。
  - C.ある対象のイメージを多角度的な視点から組みかえていくプロセス。

(山梨 2000 : 140)

上の認知プロセスのなかで、「深い」の空間的用法では、具体的な経験によって、容器のイメージを作り上げていく認知プロセスを介して、身体経験を基盤とする容器のイメージスキーマによって、動機付けしていくことが分かった。

「深い」の非空間的用法では、容器のイメージスキーマを社会的な空間領域、心理的な空間領域のような抽象的領域へ投影し、多角度的な視点をシフトする認知プロセスがかかり、具体的な経験を基盤とする容器イメージスキーマによって、動機付けしていくことが分かった。

##### 4-2 イメージスキーマのトポロジー的継承

「深い」の空間的用法では、容器が「内側」と「外側」を持つかどうか、はっきりとした空間的境界線を持つかどうか、物体の出入りが可能かどうか、というような「容器」の特徴に視点が置かれることが多く、容器のイメージスキーマを前景化する認知モードが多く見られる。一方、「深い」の非空間的用法では、容器のイメージが背景化され、容器の底に近いかどうか、内容物の密度が高いかどうか、一時的であるかどうかなどのような主観的認知視点が前景化されることが多く見られる。

「深い」の意味が、比喩的視点の投影のプロセスを介して、物理的な空間領域としての容器のスキーマから、社会的な空間領域、心理的な空間領域としての容器のスキーマへと拡張されていく。しかし、この場合に、容器のイメージスキーマが他のスキーマに変換しているわけではない。「深い」の非空間的用法における容器のイメージスキーマそれ自体は、心理的な実在性を持って意識されながら、認知主体の視点の変化によって、前景化されたり背景化されたりする。つまり、容器のイメージスキーマ自体の心理的実在性は、「深い」の空間的用法から非空間的用法への比喩的な拡張のプロセスを経ても、トポロジー的に継承されることが分かった。

## 参考文献

- Lakoff, G., and M. Johnson (1980). *Metaphors We Live By*. The University of Chicago Press.
- 渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸訳 (1986) 『レトリックと人生』大修館書店
- 金善花 (2017) 「「深い」のプロトタイプに関する日中対照研究」『言語をめぐる x 章—言語を考える, 言語を教える, 言語で考える—, 仁科弘之教授退職記念論文集 (埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2)』河正一・島田雅晴・金井勇人・仁科弘之 (編), pp.167-185.
- 金善花 (2016) 「「長い」のプロトタイプに関する日中対照研究」『ことばの本質を求めて, 小出慶一教授退職記念論文集 (埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 1)』河正一・金井勇人・仁科弘之 (編), pp.122-134.
- 久島茂 (2001) 『《物》と《場所》の対立—知覚語彙の意味体系—』くろしお出版
- 國廣哲彌 (1970) 「日本語次元形容詞の体系」『言語の科学』2, pp.13-26. 東京言語研究所
- 小出慶一 (2000) 「次元形容詞の空間的用法と非空間的用法」『群馬県立女子大学紀要』21, pp.1-13. 群馬県立女子大学
- 谷口一美 (2003) 『認知意味論の進展開—メタファーとメトニミー—』研究社
- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所／秀英出版
- 松本曜編 (2003) 『認知意味論』大修館書店
- 榎山洋介 (2010) 『認知言語学入門』研究社
- 山梨正明 (2000) 『認知言語学原理』くろしお出版
- 朱德熙 (1956) 《现代汉语形容词研究》《语言研究》第 1 期
- 陆俭明 (1989) 《说量度形容词》《语言教学与研究》第 3 期

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程)

## 複合動詞「～こむ」について

—日中対訳の観点から—

李 潔

### 【キーワード】

複合動詞、こむ、日中対訳

### 【要旨】

日本語の特徴として、複合動詞は、豊かな表現力を有しているため、日本人に日常的に多く使われている。しかし、日本語を第二言語とする学習者にとっては、さまざまな意味用法を持つ複合動詞の理解および使用は困難である。「動詞+こむ」は、国立研究所の調査（1987）によれば、結合する前項動詞の数が 231 語で、語彙的複合動詞の中では第 1 位である（姫野 1999）。しかし、複合動詞「～こむ」は日本語教育の中で一つの文法項目として扱われることはほとんどなく、学習者はそれに関する知識が不十分なまま上級段階に進んでしまい、「こむ」を正確に使用する際に困惑することになってしまう。

本稿では、多数の複合動詞のうち、数量的には上位に挙がり、母語話者によく使われ、学習者にとって習得困難な項目になる複合動詞「～こむ」を取り上げ、その意味と構造について考察した。日本語の「～こむ」を中国語に訳す時の表現の仕方、または中国語訳との対照研究を行った。中国人学習者を対象にして、複合動詞「～こむ」の習得方法と教授法への考察を深めることを目的とした。

### 1. はじめに

日本語の特徴として、複合動詞は、豊かな表現力を有しているため、日本人に日常的に多く使われている。しかし、日本語を第二言語とする学習者にとって、さまざまな意味用法を持つ複合動詞の理解および使用は困難である。

そこで、本稿は多数の複合動詞のうち、数量的には上位に挙がり、母語話者によく使われ、学習者にとって習得困難な項目になる複合動詞「～こむ」を取り上げ、その意味と構造について考察していく。また、日本語の「～こむ」を中国語に訳す時はどのように表現するか、その中国語訳と「～こむ」の意味構造を対照することによって、中国人学習者の母語干渉を考察していきたい。したがって本稿は、中国人学習者を対象にして、

複合動詞「～こむ」の習得方法と教授法への考察を深めることを目的とする。

複合動詞の中には、(1a)～(1d)のように「内部への移動」を表す「～こむ」がある。

- (1a) 地面にくいを打ちこむ。
- (1b) トンボが部屋に飛びこんできた。
- (1c) 大勢の人を狭い部屋にぎゅうぎゅう押しこむ。
- (1d) すきま風が寝室に吹きこむ。

しかし、(2)～(4)のようにすべての「～こむ」は「内部移動」という意味を表すわけではない。

- (2) 気分が悪くなり道端にかがみこむ。
- (3) これを聞いて考えこんでしまった。
- (4) 走りこんでスタミナをつける。

中国語でも二つの動詞を結合して一つの動詞として使うことができるが、両言語の複合動詞の結合様式、意味などは一致しないので、一対一で対応するというわけではない。

ここで注目したいのは、「～こむ」という複合動詞は、「内部移動」という意味を表すことが多いので、中国語の「～進」「～入」に訳される場合が一般的だということである。ただし、上記の(1a)～(1d)と(2)～(4)のように、対応する場合と、対応しない場合がある。この点を考えると、中国人学習者にとって、複合動詞「～こむ」の意味を正しく理解したり、使用したりすることは難しい、と予想される。

そこで本稿は、複合動詞「～こむ」を取り上げ、中国語の表現と、どのような対応関係になっているか、それぞれの日中対訳の意味用法と文法構造を明らかにする。その上で、中国人日本語学習者の習得状況、および母語干渉の影響や原因は何か、どのようにすれば学習者にとってより良い効率的な勉強法となるのか、等を考えていく。

## 2. 先行研究

### 2-1 姫野 (1999)

一般的に語構成においては、自動詞は自動詞と、他動詞は他動詞と結びつきやすい、という傾向が見られる。しかし、「～こむ」は、自動詞、他動詞の区別なく自由に結合する。この自由度が多く複合動詞を作り出す一因になっている。「～こむ」は、普通「内部へ」という意味を持つとされている。しかし、中には、単なる「内部移動」だけでは済まされぬニュアンスを含む場合がある。

例：・家に上がりこむ (侵入して動かないという感じを伴う)

- ・人を家に連れこむ (無理にという感じを伴う)
- ・家に泊まりこむ (物々しい感じを伴う)
- ・物を水につけこむ (全体をどっぶり入れるという感じを伴う)

姫野 (1999) は、「～こむ」の用法を「内部移動」(＝主体あるいは対象がある領域の中へ移動することを表す)と「程度進行」(＝動作・作用の進行により程度が高まりある密度の濃い状態に達することを表す)の二つに大別している。そして、「内部移動」は「移動先」を基準として7グループに、「程度進行」は「進行内容」を基準として3グループに分類されている。

#### 【内部移動】

- ①「閉じた空間への移動」例：上がりこむ、駆けこむ、運びこむ、投げこむ、など
- ②「固体の中への移動」例：食いこむ、擦りこむ、埋めこむ、植えこむ、など
- ③「流動体の中への移動」例：溶けこむ、漬けこむ、沈めこむ、など
- ④「隙間のある集合体または組織体の中への移動」例：しみこむ、編みこむ、など
- ⑤「動く取り囲み体への移動」例：包みこむ、丸めこむ、など
- ⑥「自己内部への移動 (自己凝縮体)」例：折れこむ、絞りこむ、など
- ⑦「その他」例：のぞきこむ、見こむ、など

#### 【程度進行】

- ①「固着化」例：眠りこむ、黙りこむ、考えこむ、など
- ②「濃密化」例：老いこむ、冷えこむ、咳きこむ、など
- ③「累積化」例：走りこむ、使いこむ、磨きこむ、など

### 2-2 松田 (2004)

松田 (2004) は、姫野 (1999) の研究成果を踏まえた上で、認知意味論に基づき、「～こむ」の意味構造を検討している。そこでは、「～こむ」のコア図を設定している。

図1において、矢印[ $\alpha$ ]の部分は領域 X に入ることの意味的イメージを、矢印[ $\beta$ ]の部分は領域 Y に入ることの意味的イメージを表している。コア図式は、言葉の具体的な意味ではなく、その根底にある意味的イメージである。「～こむ」は「内部移動」([ $\alpha$ ])と「その場への固着」([ $\beta$ ])の二つの意味的イメージをその根底に併せ持っている、と考えられる。



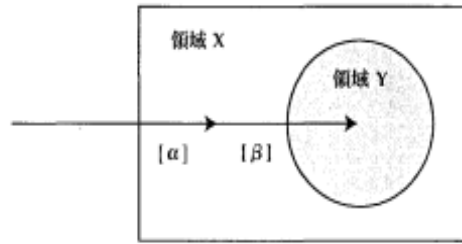


図1 「～こむ」のコア図式

松田は「～こむ」の意味タイプを V1 と V2 の意味関係に着目し、次の表 2 のように 4 タイプに分類している。

二格を伴う「～こむ」 (姫野による「内部移動」)		二格を伴わない「～こむ」 (姫野による「程度進行」)	
A タイプ	B タイプ	C タイプ	D タイプ
V1 は「内部移動」 を含意しない	V1 自体が「内部移動」 を含意する	V1 が示す状態への 変化とその状態への 固着	V1 の反復行為によ り生じる状態変化 (目標に向けて)
例) 飛びこむ 呼びこむ	例) 入りこむ 植えこむ	例) 冷えこむ 眠りこむ	例) 走りこむ

表 2 松田 (2004) による分類

本稿は、先行研究に基づいて複合動詞「～こむ」の意味と構造を考察した上で、中国人日本語学習者を対象にした調査や、中国語との対照分析を行う。その結果は、学習者にとって複合動詞の習得に役に立ち、教育者にとって学習者の状況を把握しながら、より良い教授法を作成できる、ということに活かされるだろう。

### 3. 考察対象

複合動詞「～こむ」を選定するために、姫野 (1999 : 63-72) の複合動詞「～こむ」リストを参考にする。姫野 (1999) では、「～こむ」の用法を「内部移動」(=主体あるいは対象がある領域の中へ移動することを表す) と「程度進行」(=動作・作用の進行により程度が高まりある密度の濃い状態に達することを表す) の二つに大別している。そして、「内部移動」は「移動先」を基準として 7 グループに、「程度進行」は「進行内容」を基準として 3 グループに分類されている。

そこでまず、すべての「～こむ」を中国語に訳した。中国語に訳した結果として、3 種類に分けられる。

- I. 中国語の「～進」「～入」と「～深」「～沉」と対応できる複合動詞「～こむ」
- II. 中国語訳があるが、特に対応関係がなく別の単語で表現するもの
- III. 日中辞書に載っておらず、【現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)】にも例文を見つけれない「～こむ」

次の章では、以上の I と II の複合動詞「～こむ」について、中国語との対訳、相違点または意味構造などの特徴を考察する。

#### 4. 複合動詞「～こむ」と中国語訳の対応関係

##### 4.1 「～こむ」について

『新日汉辞典』による「～こむ」について

「接尾」(接动词连用形后) (= 「接尾詞」(動詞の連用形につける))

i) 表示进入的意思 (= 「中に入る」という意味を表す)

例： 風が吹き<sup>風吹きこむ</sup>こむ／风吹进来。 川へ飛び<sup>飛びこむ川中</sup>こむ／跳进河里。

対応関係： 吹き こむ                      飛び こむ  
                  ↓                      ↓  
                  吹                      跳  
                  ↓                      ↓  
                  进来                  进

ii) 表示某种状态的继续和加深 (= ある状態が持続するまたは深まることを表す)

例： 考え<sup>考えこむ</sup>こむ／沉思。 黙り<sup>黙りこむ</sup>こむ／沉默。

対応関係： 考え こむ                      黙り こむ  
                  ↙                      ↘  
                  ↓                      ↓  
                  沉                      黙  
                  ↘                      ↙  
                  思                      沉

##### 4-2 「～こむ」と「～进[jìn] (ジン)」「～入[rù] (ルウ)」

『中日辞典』による「～进」について

「方向補語“～进”の用法」

動詞の後に用いて、人や事物が動作に伴って外から内へ入る意味を表す。

①動作の受け手や行き手を表す名詞を目的語にとる形で。

例： 从外边跑<sup>からそと</sup>进<sup>駆けこむ</sup>几个小男<sup>何人男の子</sup>孩／外から男の子たちが何人か駆け<sup>こむ</sup>込<sup>入</sup>んだ。

『中日辞典』による「～入」について

①入る；入れる。【語法】現代語において限られた言い方でのみ用いられる。「入る」に当たるのは“～進”。

流れる入る  
例：流入／流れて入る。

上記のように、「中に入る」という意味を表す時、「～進」の①と、「～入」の①に対応する。「～進」「～入」は基本的に内部移動を表すため、それに対応する中国語表現として「～進」「～入」が多用される。

#### 4-3 「～こむ」と「沉[chén]（チェン）～」「深[shēn]（シェン）～」

『中日辞典』による「沉～」について

③（程度が）甚だしい

眠るとても甚だしい  
例：睡得 很 沉 / ぐっすり眠りこんでいる。

『中日辞典』による「深～」について

⑧よく、深く；たいへん、大いに

わたしたいへん信じるきみ必ずくる  
例：我 深 信 你 一定会来的。／君は必ず来るものと思い込んでいた。

上記のように、「状態の持続または深まる」という意味を表す時、「沉～」の③と、「深～」の⑧に対応する。「思い込む」「考え込む」「眠り込む」は、深く信じる、深く考える、深い睡眠状態に入るという意味で、同じ「深まる」「ある状態に落ちる」という意味を持つ「沉～」「深～」と対応している。中国語では、「深信」「沉思」「沉睡」と訳される。

#### 4-4 仮説

以上の分析から考えると、以下のような仮説を立てられる。

「内部移動」の意味を持つ「～こむ」は中国語の「～進」「～入」と対応する。

「程度進行」の意味を持つ「～こむ」は中国語の「～深」「～沉」と対応する。

#### 4-5 中国語訳を利用した「～こむ」再分類

本節では、中国語訳を利用した「～こむ」の再分類を行う。姫野（1999）の分類を踏まえた上で、「～こむすべての「～こむ」を中国語に訳し、それに基づいて、日中対訳の

視点から「～こむ」を再分類した。その結果をもとに、4-4で提出した仮説を検証する。

姫野による「内部移動」		姫野による「程度進行」		
Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ	Eタイプ
「～進」「～入」と対応する	「～進」「～入」と対応しない	「深～」「沉～」と対応する	「深～」「沉～」と対応しない	
上記のⅠ	上記のⅡ	上記のⅠ	上記のⅡ	
主体あるいは対象がある領域の中へ移動し、移動先が物理的な場所であり、ある空間や固体、流動体などという具体的な動作を表現する。	物理的移動のほかに、より抽象的な領域への移動も表現する。「こむ」は前項動詞の意味を強調し、強意を表現する。	人間の心理作用、思考作用などに関する、抽象化された場所に移動しそのまま固着する。	状態の変化を表すものであり、その変化の程度が進むことを表現する。	繰り返しのきく、人間の意志的行為を表すという反復行為により生じる状態変化（目標に向けて）。
例) 飛びこむ 駆けこむ 流れこむ	例) 倒れこむ もつれこむ 聞きこむ	例) 眠りこむ 考えこむ 信じこむ	例) 気負いこむ 冷えこむ 老いこむ	例) 走りこむ 洗いこむ 磨きこむ

表4 姫野(1999)と筆者の分類の対照

#### 4-5-1 Aタイプ

このタイプの「～こむ」は、典型的な内部移動を表す。一方、中国語の「～進」「～入」も基本的な意味は「中に入る」を表すため、それに対応する中国語表現として「～進」「～入」が多用される。つまり、「～進」「～入」は典型的な内部移動を表す「～こむ」にしか対応しない。

「～進」「～入」は、前項動詞が移動の様態、手段、付随状況を表し、後項動詞「こむ」が内部移動を表す、というタイプの複合動詞「～こむ」に対応するのである。主体あるいは対象がある領域の中へ移動し、移動先が物理的な場所であり、ある空間や固体、流動体などという具体的な動きを表現する。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

- (5) 警察署のトイレに駆け込み、朝食べたものを吐き戻した。(『無伴奏』)

訳文：跑进警察局，早上吃的东西都吐了出来。

上記の例に示されるように、Aタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の方向補語とし

での「～進」「～入」と対応している。Aタイプの前項動詞と「こむ」の関係を見ると、大部分の複合動詞は「～して入る（入れる）」「～しながら入る（入れる）」「～するように入るとして入る（入れる）」と言い換えることができる。

例えば、(5)の「駆け込む」について、前項動詞は単純動詞で「駆ける」という意味を表し、「こむ」の部分は「目的語の中に入る」という意味補充という役割となる。一方、中国語訳の「跑进」を見ると、前項詞の「跑」は「走る」という意味で、後項詞の「进」は「目的語の中に入る」という意味である。

#### 4-5-2 Bタイプ

このタイプの「～こむ」は、内部移動に含まれている。ただし、Aタイプと比べると、物理的移動のほかに、より抽象的な領域への移動を表現する。中国語表現としては、「～進」「～入」で表現できない例が多い。つまり、「～進」「～入」は抽象的な内部移動を表す「～こむ」に対応しないのである。Bタイプでは、主体あるいは対象がある領域の中へ移動し、移動先が抽象的場所であり、「こむ」は前項動詞の意味を強調して、強意を表現する。

ここでは、「こむ」を含む複合動詞だけでなく、共起する修飾語・副詞、前後の文脈または全体的な場面から分析していく必要がある。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

(6) ベッドに倒れ込んだ私は、そのまま眠ってしまった。

(『大列車強盗の痛快一代記』)

訳文：在床上倒下的我，就那样睡着了。

上記の例に示されるように、Bタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の特定の単語に対応しない。日本語の「こむ」は前項動詞の意味を強調する役割として働く一方、中国語もそれぞれに強意を表す修飾語を加えることによって、全体的に日本語と同じ意味を表現することができるようになっている。

例えば、(6)の「倒れ込む」は、ぼったりと倒れることを表す。立っていられずに単に「倒れる」ことをより強く表した言い方である。「倒れる」は中国語に訳すと「倒」であるが、目的めがけて動作するという複合動詞「倒れ込む」は、「倒下」と訳すと、さらにニュアンスが近づく。この場合の「下」は「倒」を補助し、「倒れてなかなか立ち上がらない」「倒れてそのまま動かない」という意味を表現する。つまり、「倒れ込む」は「倒下」と、「倒れ」は「倒」と意味的に対応するが、「こむ」は「下」と意味的に対応するわけではない。ただし、同じニュアンスを表すため、「倒れ込む」の「こむ」と、「倒下」の「下」は、文の中で同じ働きをしていると言えるだろう。

### 4-5-3 Cタイプ

このタイプの「～こむ」は、程度進行に属し、抽象化された場所に移動して、そのまま固着することを表す。一方、中国語の「深～」「沉～」も基本的な意味は「状態の持続または深まる」を表すため、それに対応する中国語表現として「深～」「沉～」が多用される。

「深～」「沉～」は、前項動詞が事柄の変化を表し、後項動詞「こむ」が程度進行を表す、というタイプの複合動詞「～こむ」に対応するのである。主に人間の心理作用、思考作用などに関して、抽象化された場所に移動して、そのまま固着することを表す。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

- (7) 部屋は真っ暗で、クリッサは柔らかいベッドの中で眠りこんでいた。(『go now』)  
訳文：房间很黑，Crissa 在柔软的床上沉睡着。

上記の例に示されるように、Cタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の修飾語としての「深～」「沉～」と対応している。

例えば、(7)の「眠り込む」については、前項動詞は単純に睡眠状態を表し、「こむ」の部分は「よく寝入る。ぐっすり眠る」という意味補充という役割となる。一方、中国語訳の「沉睡」を見ると、主部動詞の「睡」は「眠る」という意味で、補語の「沉」が付くことによって、「深い眠りに落ちてしまう」という意味を表現できる。

### 4-5-4 Dタイプ

このタイプの「～こむ」は、程度進行に含まれる。ただし、Cタイプと比べると、抽象化された場所に移動して、そのまま固着する、ということのほかに、状態の変化またはその変化の程度が進むことを表現する。中国語表現としては、「深～」「沉～」で表現できない例が多い。

生理的な変化や自然現象の変化を表すものが多く、状態の変化を表すものであり、「こむ」はその変化の程度が進むことを表している。ここでは、強い程度を表す修飾語を伴うことが多いので、「こむ」を含む複合動詞だけでなく、共起する修飾語・副詞、前後の文脈または全体的な場面から分析していく必要がある。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

- (8) 出発する時になって初めて、父が急に老け込んだことに気づいた。  
(『死・ふたたび』)

訳文：到了出发之前才第一次发觉，父亲突然衰老了许多。

上記の例に示されるように、Dタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の特定の単語に対応しない。この点については、Bタイプと同様である。日本語の「こむ」は前項動詞

の意味を強調する役割として働く一方、中国語もそれぞれに強意を表す修飾語を加えることによって、全体的に日本語と同じ意味を表現することができるようになっている。

例えば、(8)の「老け込む」は、年齢を重ねて老いることを表す。単純動詞の「老ける」より、「すっかり老けている」という強く表した言い方である。「老ける」は中国語で「老」であるが、より強いニュアンスの「老け込む」は、「衰老」に訳すと、さらにニュアンスが近づく。この場合の「衰」は「老」を修飾し、「すっかり老ける」「めっきり老ける」という意味を表現する。つまり、「老け込む」は「衰老」「老け」は「老」と意味的に対応するが、「こむ」は「衰」と意味的に対応するわけではない。ただし、同じニュアンスを表すため、「老け込む」の「こむ」と、「衰老」の「衰」は、文の中で同じ働きをしていると言えるだろう。

#### 4-5-5 Eタイプ

このタイプの「～こむ」は、程度進行に含まれて、累積の意味を表すものである。このグループの前項動詞は、繰り返しの効く、人間の意志的行為を表している。「こむ」は、時間をかけてその行為を重ね(累積し)、人の技や対象とする事柄の質を向上させるというものである。Dタイプと同じく、中国語表現としては「深～」「沉～」で表現できない例が多い。

目標に向けて人間の意志的行為を表す、という反復または練習行為により生じる状態変化を表現する。中国語に訳す時、「練習のため；反復；十分に」などを表す「练习、反復、不断、充分」などを使って訳すことが多い。

ここでは、反復行為を表すため、「こむ」を含む複合動詞だけでなく、前後の文脈または全体的な場面から分析し、特に動詞に伴って「こむ」の意味を補助する修飾語・副詞などに注目していきたいと思う。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

(9) 20代の日々、一周400メートルのトラックで走り込むことが不可欠です。

(『がなり流』)

訳文：在20几岁的日子，一圈400米的跑道上的拼命(练习)跑步是必不可缺的。

上記の例に示されるように、Eタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の特定の単語に対応しないが、ほとんど「練習のため；反復；十分に」などを表すため、中国語に訳す時は、「练习、反復、充分」などの副詞または補語を使って、全体的に日本語と同じ意味を表現することができるようになっている。

例えば、(9)の「走り込む」は、練習で十分に走っておくことを表す。「毎日」という副詞を加えれば単純動詞「走る」も繰り返し行われることを表すことができるが、「走り込む」にはある「目標」があって走っている、というニュアンスが感じられる。すなわち、「走り込む」は「繰り返し走って練習する」という反復行為と、(競技、健康などの)目標が達成できる状態を目指して、という両方の意味を持つ、と考えられる。

中国語には、このような微妙なニュアンスを表す単語がないので、そのままの内容を訳すしかない。従って、「走る」は中国語で「跑步」であるが、「繰り返し走って練習」「限界まで走る」という意味の「走り込む」は、そのまま中国語の「拼命（練習）」と訳される。つまり、「走り込む」は「拼命（練習）跑步」と、「走り」は「跑步」と意味的に対応するが、「こむ」は「拼命（練習）」と意味的に対応するわけではない。ただし、同じニュアンスを表すため、「走り込む」の「こむ」と、「拼命（練習）跑步」の「拼命（練習）」は、文の中で同じ働きをしていると言えるだろう。

## 5. 今後の課題

本稿では、多数の複合動詞のうち、数量的には上位に挙がり、母語話者によく使われ、学習者にとって習得困難な項目となる複合動詞「～こむ」に注目し、中国語訳との対照や分析を行ったが、同じように「内部移動」の意味を持つ後項詞類には、他にも「～こめる」「～いる」「～入れる」などがある。それぞれの特徴を分析し、中国語との対応関係を考察することを、今後の課題としたい。

## 参考文献

- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
- 黒羽栄司（1995）『日本語で学ぶ日本語中級』大修館書店
- 国際学会友日本語学校（2000）『進学する人のための日本語中級』凡人社
- 斎藤雅子（2013）「現代日本語複合動詞の諸相—日本語教育の観点から—」大東文化大学修士学位論文
- 大連外国語学院／大連外国语学院≪新日汉辞典≫编写组编（1980）『新日汉辞典』辽宁人民出版社
- 張志凌（2014）「複合動詞「～こむ」の意味体系—中国語との対照的視点から—」東京外国語大学博士學位論文
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『中級日本語』凡人社
- 新美和昭・山浦洋一・宇津野登久子（1987）『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 4 複合動詞』荒竹出版
- 松田文子（2004）『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して—』ひつじ書房
- 睦俊秀（2012）「「程度進行」の意味を持つ複合動詞「V1+こむ」の意味と構造に関する考察」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』8, 峰岸真琴・稗田乃・早津 恵美子・川口裕司（編）, pp.185-208. 東京外国語大学大学院総合国際学研究院グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 北京／對外經濟貿易大学・北京／商務印書館・小学館共同編集（2002）『日中辞典第2版』小学館



北京商務印書館・小学館・依藤醇・小川文昭・三宅登之（編）（2002）『中日辞典第2版』小学館

何志明（2010）『現代日本語における複合動詞の組み合わせ—日本語教育の観点から—』笠間書院

## 引用文献

小池真理子『無伴奏』

シルヴィア・マウルターシュ・ウオルシュ『死・ふたたび』横山啓明訳

高橋がなり『がなり流』

リチャード・ヘル『go now』滝澤千陽訳

ロナルド・ビッグズ『大列車強盗の痛快一代記』藤井留美訳

（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）

# 日本語と韓国語のフィラーの対照研究

## —「まあ」と「ㄱㅇ」を中心に—

金 聖実

### 【キーワード】

フィラー、「まあ」、「ㄱㅇ」、スキーマ

### 【要旨】

本稿では、日本語のフィラー「まあ」と、それと対応関係を持ち、機能面で類似性を有する韓国語のフィラー「ㄱㅇ」を中心に取り上げる。そして、スキーマを見つけ出し、そこから「まあ」と「ㄱㅇ」の相違点を探っていく。

まず、「まあ」と「ㄱㅇ」のプロトタイプ用法から考察を行うが、勧誘文の文頭に現れる「まあ」、文末に現れる「ㄱㅇ」をプロトタイプ用法として扱うことにした。さらに、「まあ」と「ㄱㅇ」の様々な用例を取り上げ、より詳しい分析を行うことによって、「まあ」と「ㄱㅇ」のスキーマを抽出することができた。

次に、そのスキーマが合理的なものであるかどうかを検証するために、拡張事例において、再検討を試みた。そして、「まあ」と「ㄱㅇ」の位置の問題について考察した。「まあ」が文末で現れないのは、「まあ」には「進行を止める」機能があるためである（文末には止める対象となる進行がない）一方、「ㄱㅇ」が文末に現れるのは、「ㄱㅇ」には「進行を止める」機能がないため、その位置がより自由であるためである。「ㄱㅇ」は、当該発話が中心的情報ではなく、副次的情報であることを示す。

最後に、外国語教育におけるフィラーの指導方法について検討した。筆者による結論は、学習者がすぐ習得できるような「あー」「えー」となどのフィラーに関しては、「タスク先行型」の教授法が、一方、面によって異なるニュアンスを表す「まあ」などのフィラーに関しては先に提示・説明をする「先導入型」の教授法が望ましい、というものである。

### 1. 研究目的及び論文の構成

本研究は、日本語のフィラー「まあ」と、それと対応関係を有する韓国語のフィラー「ㄱㅇ」の共通点と相違点を探ることを目的とする。そして、外国語教育におけるフィラーの指導方法を提案する。

第1章では問題の所在と先行研究を記述し、本稿における研究方法を提示する。第2章では、「まあ」と「뭐」のスキーマを抽出するために、様々なプロトタイプ用例を分析し、第3章では、「まあ」と「뭐」の拡張事例を用いて、第2章で抽出した両者のスキーマについて再検討をする。第4章では、日本語教育現場において、従来のフィラーの指導方法を論じた上で、筆者の結論を述べる。最後に、第5章では、まとめと課題について記述する。

## 2. はじめに

日常会話で現れる日本語のフィラー「まあ」と韓国語のフィラー「뭐」は多くの場合、お互いに訳されることが多い。それは概言すると、「まあ」と「뭐」は同じ機能、用法を有することを意味するだろう。しかし、両者が対応関係を有しない場合もあることが、それらの基本機能が完全に一致するわけではないことを示す。

次の(1)と(2)は「뭐」と訳すことができない場合である。

### (1) <初対面で、食事をするとき>

まあ、飲んでください。

a) \*뭐, <sup>のみ</sup>마시 <sup>なさい</sup>세요. (非対応)

b) 음, <sup>のみ</sup>마시 <sup>なさい</sup>세요. (対応)

### (2) <進学について、相談に来た学生に向かって>

まあ、座ってください。

a) \*뭐, <sup>座って</sup>앉으 <sup>ください</sup>세요. (非対応)

b) 자, <sup>座って</sup>앉으 <sup>ください</sup>세요. (対応)

本稿では、スキーマという観点から「まあ」と「뭐」を中心に対照する。まずは、本稿における「まあ」と「뭐」のプロトタイプの用法を示し、また、様々な用法を用いて、「まあ」と「뭐」のスキーマを抽出する。その上で、「まあ」と「뭐」の拡張事例の分析を通じて、それらのスキーマについて再検討を行う。また、本稿のもう一つの論点は、外国語教育へのフィラーの応用である。フィラーは会話中の欠かせない非常に重要な発話要素であるため、日本語教育現場や韓国語教育現場において、どのように教授すればいいのか、ということ考察する。

## 2-1 問題の所在

①韓国語の「뭐」は発話の文頭、文中、文末、いずれにも現れるのに対し、日本語の「まあ」は文末には現れないが、それはなぜだろうか。

(3) A : 今お時間よろしいでしょうか？

B : **まあ**、そうですね、大丈夫です。

B' : そうですね。**まあ**、大丈夫です。

B'' : #そうですね、大丈夫です。**まあ**。 (作例)

(4) A : 締切過ぎてるんだけど。

B : a. **まあ**、明日までには完成させますよ。

b. ??明日までには完成させますよ、**まあ**。 (富樫 2002 : 20)

一方、韓国語「뭐」はよく文末に出現する。

(5) A : <sup>ヒョンゾン</sup>현정 <sup>가</sup>이 <sup>君</sup>너 <sup>綺麗(に)</sup>예뻐 <sup>なっ</sup>졌 <sup>た</sup>다.

B : <sup>元々</sup>원래 <sup>きれい</sup>이뻐 <sup>です</sup>는데요 <sup>よ</sup> 뭐.

<sup>イハンキユウ</sup>(이한규 1999 : 153)

B' : ??元々綺麗だったんですよ。**まあ**。

②1990年代より、日本語学習者の増加のため、フィラーの研究は進んできたが、日本語教育と韓国語教育現場では、フィラーの教育があまり行われていないのはなぜだろうか。外国語教育現場において、フィラーはどのように教授すればいいだろうか。

## 2-2 先行研究

一部：フィラーの研究はいつから始まったか	
日本語のフィラー	韓国語のフィラー
第2次世界大戦後（1950年から）話し言葉が研究対象となるにつれ、フィラーに着目するようになる。	1990年代後半より、談話標識の研究が盛んになり、その中で、フィラーという語にも注目することになる。
二部：従来のフィラーの研究について	
小出（2009）は、フィラーとしての「まあ」には、暫定性表示という機能が保たれているが、その表示は、これから行おうとしている自身の発表行為に対して付けられるようである、と述べている。	
加藤（1999）は「まあ」の基本機能は「とりあえずの反応」であると述べている。「応答型用法」の「まあ」は相手の発話内容に対する受け取り方として、その「とりあえずの反応」が発話の冒頭に現れ自分の発話内容を発展させていく。一方、「展開型用法」の「まあ」は、「とりあえずの反応」が発話内の文頭・文中に現れ、自分の主張、見解を発展させて、聞き手に伝える、と述べている。	
大工原（2010）では、但し書き的「まあ」は心内行動との対応づけができず、副詞的であり、なだめ用法の「まあ」（相手への理解を示しつつ相手の行為・状態を制する役割；ex. まあ、落ち着いて）をフィラーとしてみなしているが、大工原自身も認めているように、なだめの「まあ」も但し書きの「まあ」として、但し書きを加えて十分に解釈することができる。また、大工原（2010）は、日本語教育におけるフィラーの指導の必要性と指導の方法論について言及している。	
구종남（クゾンナム（2000））は、談話標識の「뭐」は平叙文、疑問文、命令文、勧誘文いずれにも現れ、その特徴は、語彙的意味を表わさないため、命題的意味に影響を及ぼさない要素である；具体的談話状況で使用される；文の中で出現位置が自由である；文内の他の要素と文法的関係を持っていない；独自の機能を持っている、つまり、談話上、話者の心理的態度を表す、と述べている。	
이한규（イハンキュウ 1999：137）では、「뭐」の基本意味を「（何か）確実ではない」と述べている。また、すべての談話標識としての「뭐」は、場面によって意味が違うものであるが、それらは「뭐」の基本的意味から推論できるものである、と指摘している。	

表1 先行研究の概要

## 2-3 研究方法

### I. 文献収集

### II. ニュースと留学生のための聴解テキストを資料として扱う

### III. コーパス利用

朝日新聞コーパス、読売新聞データベース、マルムンチ（말뭉치）コーパス

### 3. スキーマとプロトタイプの考察

本稿では、フィラーの定義について、「本来の語彙的な意味から離れて用いられ、それを削除しても発話全体の命題的な意味が変わらないような語句」という野村（1996：93）の定義を踏まえ、以下のように規定する。

フィラーとは「述語と格関係を結ばない位置（文間や節間）に現れる、発話に対する態度を表すもの」である。

#### 3-1 日本語と韓国語のフィラーの全体構造

日本語と韓国語のフィラーの特徴は類似性を有する。特に派生系のフィラーは、自立要素が変化したものであるが、モダリティ副詞などのように、もともと文内にあった何らかの呼応関係が緩くなり、さらには呼応が消失することによって文内の位置付けを失い、フィラー化する、という特徴が見られる。

#### 3-2 「まあ」のプロトタイプ用法

本稿における「まあ」のプロトタイプとは、命令文、勧誘文、依頼文の発話文頭に現れるものを指す。

(7) <興奮している相手に向かって>

まあ、落ち着いてください。

(大工原 2009 : 129)

(8) <話が長く続く場面で>

まあ、話の続きは、今度会ったときにでも。

(大工原 2009 : 146)

#### 3-3 「 뭐 」のプロトタイプ用法

本稿における「뭐」のプロトタイプ用法とは、頻繁に使用される、文末に現れる「뭐」を指す。

(9) A : <sup>ヒョンボン</sup>현정 <sup>가</sup>이 <sup>君</sup>너 <sup>綺麗(に)</sup>예뻐 <sup>な</sup>졌 <sup>た</sup>다.

B : <sup>元々</sup>원래 <sup>きれい</sup>이뻐 <sup>です</sup>는데 <sup>よ</sup>요 뭐.

<sup>イハンキョウ</sup>(이한규 1999 : 153)

(10) A : <sup>オイ</sup>야, <sup>私</sup>나 <sup>除隊</sup>제대 <sup>した</sup>한 <sup>後</sup>뒤 <sup>に</sup>로 <sup>部隊</sup>부대 <sup>雰囲気</sup>분위기 <sup>ちょっと</sup>좀 <sup>生きた</sup>살았 <sup>の</sup>나?

B : <sup>軍隊</sup>군대 뭐 <sup>まあ</sup> 똑 <sup>全く</sup> 똑 <sup>同じ</sup> 같 <sup>です</sup>죠 뭐.

マルムンチ 高麗 大学校 教養 国語 作文 国語 国問 学科  
 (말뭉치.고려 대학교 교양 국어 작문 (국어 국문 학과) )

### 3-4 「まあ」と「뭐」のスキーマ

2-2 と 2-3 の両言語におけるプロトタイプ用法を観察し、なぜ「まあ」は文末に現れないのか、なぜ「뭐」は文末に現れるのかという点について、両者のスキーマから解釈することができる。

つまり、(3) (4) の「まあ」が文末に現れると不自然に思われるのは、「まあ」には「進行を止める」という基本機能があるためであり、発話の文頭、文中には止める対象となる進行が必ず存在するからである。一方、文末には止める対象となる進行が存在しないため、違和感を覚えるのである。

一方、「뭐」には「進行を止める」機能がなく、その発話自体が副次的情報であることを表すため、その出現位置がより自由となり、文末に現れることも可能となる。

フィラー	スキーマ
まあ	とりあえずの代替案を提出するために、進行しているものを止めること。
뭐	当該発話が副次的情報であることを表す。従って、当該発話はとりあえず性のニュアンスを帯びることになる。

表2 「まあ」と「뭐」のスキーマ

## 4. 「まあ」と「뭐」の拡張事例の考察

### 4-1 注釈の「まあ」と「뭐」

注釈とは、補足すること、さらに説明することであり、発話内容に、副次的情報を加えるものである。

- (11) 語用論では、聞き手による inference、まあ、解釈、の過程を解明することが重要なわけです。(大工原 2010 : 149)

- (12) <sup>どうせ</sup>기왕 <sup>なら</sup>이면 <sup>ば</sup>은 <sup>ちょっと</sup> 좀 <sup>目立つ</sup> 뭐는 <sup>歌</sup> 노래 <sup>に</sup> 로, <sup>ちょっと</sup> 뭐 <sup>爽やかな</sup> 좀 <sup>歌</sup> 신나는 <sup>歌</sup> 노래 <sup>に</sup> 로, <sup>拍手</sup> 박수  
<sup>叩き</sup>치 <sup>ながら</sup>면서 <sup>聞く</sup> 들을 <sup>こと</sup> 수 <sup>できる</sup> 있는 <sup>歌</sup> 노래. (말뭉치.아침 <sup>朝</sup> 마당 <sup>広場</sup> 토요일 <sup>土曜</sup> 와이드)

(11) において「まあ」は、話し手が英語の inference の訳語として日本語の「解釈」を選択し、inference についての解釈を加えている。その解釈を入れるために、「まあ」で進行を止めているが、話し手自身の継続する発話内容をいったん止めることで、聞き

手の理解を助ける。このように、発話中、進行を止め、注釈を入れることによって、発話意味をより分かりやすく伝えている。

(12) の前半で話し手は、音楽を聴くなら、もっと目立つ音楽を流すように、と勧めている。後半では「 뭐 」を伴って、前半で言った「目立つ音楽」とは、どのような音楽であるかについて、「爽やかな音楽」「拍手をしながら聴ける音楽」などのような解釈を挿入し、聞き手にもっと分かりやすい説明を与えている。「 뭐 」は、それが含まれる発話自体が中心的情報を表すものではなく、その中心的情報を補足するための副次的情報であることを表している。

#### 4-2 例示の「まあ」と「뭐」

例示が行われるところに現れるものである。

(13) <アメリカにいたころの暇な時間の過ごし方を聞かれて>

アメリカではあの一、**まあ**、友人とあったりとか、**まあ**本を読んだりとか、**まあ**、映画を見たりとか… (小出 2009 : 19)

(14) a : <sup>私達</sup>우리 <sup>も</sup>도 <sup>老後</sup>노후 <sup>準備</sup>준비 <sup>を</sup>를 <sup>しなければ</sup>해야 <sup>いけないけど</sup>하는데 <sup>何</sup>뭐 <sup>しよう</sup>할 <sup>か?</sup>까?

b : 뭐 <sup>旅行</sup>여행 <sup>も</sup>도 <sup>する</sup>하 <sup>し</sup>고 뭐 <sup>運動</sup>운동 <sup>も</sup>도 <sup>する</sup>하 <sup>し</sup>고 뭐… (이한규 1999 : 13)

(13) はアメリカにいた頃の自分の暇な時間の過ごし方について、様々なことを挙げている。その例ごとに「まあ」が現れるが、「友人と会う」「本を読む」「映画を見る」などの経験をしたことを伝えている。ここで、特に「まあ」を使用しなくても、話し手の質問に答えることができるが、例を示すために、進行を止めることになる。言い換えると、進行を止めるというより、進行を変えて発話をしている。実際に、進行を変えるということは、進行を止めることによって変えるのである。

(14) では老後の準備として、旅行、運動などを挙げている。ここで、相手の質問に対し、答え手は十分に考えた意見を述べるのではなく、とりあえず暫定的な回答を示していて、発話の本気度が下がっている。つまり、答え手が挙げている「旅行」や「運動」などは、中心的情報ではなく、副次的情報である。

#### 4-3 見解表示の「まあ」と「뭐」

自らの見解を述べるところに現れ、暫定的なものとして提示することで、主張を和らげようとするものである。



(15) 学生を対象にした調査でも、恋人がいるのが約3割という結果が出ていて、今回の調査結果も、**まあ**これくらいだろうと感じた。 (読売新聞 2016.10.05)

(16) <sup>だから</sup>그러니까 <sup>ここ</sup>여기 <sup>が</sup>가 <sup>実は</sup>사실 <sup>地盤</sup>지반 <sup>が</sup>이 <sup>弱い</sup>약 <sup>です</sup>해요 <sup>風水的</sup>풍수적 <sup>に</sup>으로 <sup>堅い</sup>단단한  
<sup>地</sup>땅 <sup>では</sup>이 <sup>ない</sup>아니 <sup>し</sup>지 <sup>でも</sup>그래도 뭐 <sup>どう</sup>어때 <sup>地</sup>땅 <sup>価</sup>값 <sup>は</sup>은 <sup>大丈夫</sup>괜찮 <sup>だろう</sup>잖아  
 (말뭉치 <sup>毎日</sup>날마다 <sup>祭り</sup>축제)

(15) では、前半において、今の学生達はどれくらい恋をしているかという調査結果について、「約3割の学生が恋をしている」と述べている。後半では、話し手はその調査結果に基づいて、今回の調査結果を「大体同じくらいだろう」と推測している。文末の「だろう」という表現は、自分の意見を述べるときに使用する表現であるため、「まあ」がなくても、発話自体が「見解表示」を表すことが分かる。しかし、この発話で「まあ」が現れるのは、話し手が自身の意見を述べるために、進行を止める必要があると考えているからである。

(16) は地盤が弱い、地価が安いから、その土地を買ってもいいのではないかと、という話し手の意見を伝えている。とはいうものの、話し手は自分の意見を素直に言うのではない。発話中の「地盤が弱い」「地面が風水的に硬くない」「地価が安い」などの情報は、話し手の発話意図を伝達するための暫定的なものであり、副次的情報として現れるものである。従って「뭐」が現れる発話自体は、中心的情報ではなく、それを補うための副次的情報であり、自身の主張を和らげる役割を果たしている。

#### 4-4 引用の「まあ」と「 뭐 」

相手の発話を引用する時に現れるものである。これは、相手の発話をとりあえず認める、という暫定性に基づくものである。

(17) A : 日本でリンゴといたら、青森ですかね。

B : **まあ**、やっぱり、青森ですね。もっとも、長野や岩手も有名ですけどね。

(作例)

(18) A : <sup>ヒョンゾン</sup>현정 <sup>が</sup>이 <sup>君</sup>너 <sup>綺麗</sup>예뻐 <sup>(に)</sup>졌 <sup>た</sup>다.

B : <sup>元々</sup>원래 <sup>きれい</sup>이뻐 <sup>です</sup>는데 <sup>よ</sup>요 뭐.

(이한규 1999 : 153)

(17) では、A が B に、日本のリンゴの名高い産地として一番有名な場所が「青森ですかね」と確かめている。B はとりあえず A の発話「青森である」を引用し、認めているが、それは A の発話に対する暫定的な、とりあえずの代替案を示すものである。答え手 B は、そのとりあえずの代替案を提示するために、「まあ」によって進行を止めている。

(18) では、B は A の「きれいだ」という発話を引用している。このような発話は、話し手が自身の能力や存在を自ら褒めても聞き手のフェイスを脅かさないほど近い関係で使用可能となる。B は A に褒められた後、A に何らかの反応を表わそうとして、相手の発話に素直に賛成せず、ただ副次的情報を表し、とりあえずの反応を伝えている。

以上の分析をまとめると「まあ」と「曄」のスキーマは次の表 3 のような共通点と相違点があることが分かる。

スキーマ	まあ	曄
進行を止める	○	×
副次的情報であることを表わす	○	○

表 3 「まあ」と「曄」のスキーマの対照

## 5. 外国語教育へのフィラーの応用

### 5-1 日本語教材でのフィラーの扱いについて

本章で扱う資料は「留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ（中級・中上級・上級）」という聴解テキストである。この教材の中で扱われているフィラーを観察すると、様々なフィラーが出現しているが、「まあ」は上級にしか出現しなかった。それは、フィラーは習得過程において順序があるからであり、「まあ」は上級のレベルで初めて習得できるものだからである。

### 5-2 外国語教育におけるフィラーの指導方法

本節では、外国語教育現場において、フィラーを効果的に指導するための方法について検討するが、大工原（2010）、山内（2005）のフィラーの指導方法論を参考にする。まとめると表 4 のようになる。

	大工原 (2010)	山内 (2005)
教授法	導入先行型 <sup>1</sup> 教師による提示・説明→運用・調整	タスク先行型 タスクを取り上げる→文法や表現の導入を行う
メリット	多様な発話効果を持つフィラーに関しては、先に導入し、学習者に理解してもらう。	「タスク先行型」教育を行うことによって、学習者が本当に必要としている文法項目を発見し、それを導入することができる。
デメリット	すべてのフィラーの用法について体系的な説明をすることは難しい。	各レベルに習得できるフィラーがあり、習得難易度の異なるフィラーもあるため、タスク遂行中、その場に即した適切な表現が必ず使用されるとは言い難い。
本稿におけるフィラーの教授法	大工原 (2010) の「導入先行型」と山内 (2005) の「タスク先行型」を組み合わせる。	

表 4 従来の指導方法論に基づいた本研究におけるフィラーの教授法

## 6. まとめ

本研究では、日本語のフィラー「まあ」と、それと対応関係を有する韓国語の「ㄱ」を中心に上げ、スキーマを抽出して、そこから両者の相違点を考察してきた。その結果、「まあ」には「進行を止める」機能があることが明らかとなった。文末には止める対象となる進行がないため、「まあ」は文末に現れると不自然に感じられる。一方、「ㄱ」には「進行を止める」機能はなく、その発話自体が暫定的、副次的情報であることを表す。そのため、その出現位置は自由なのである。

また、従来のフィラーの指導方法論に基づき、本稿におけるフィラーの指導方法の提案を試みた。即ち、学習者がすぐ習得できるような「あの」「えーと」などのフィラーに関しては、先に提示や説明をする必要がない「タスク先行型」の指導方法が望ましい。一方、場合によって異なるニュアンスを有する「まあ」のようなフィラーに関しては、「導入先行型」の指導方法で、学習者にある程度、理解してもらった上で、コミュニケーションの活動を行う、という教授法が望ましいだろう。

本稿の範囲は、日本語の「まあ」と韓国語「ㄱ」の対照研究に留まるが、今後は、中国語のフィラーとの対照研究も行い、各言語における様々なフィラーのスキーマについて、体系的な考察をしたい。

<sup>1</sup> 「導入先行型」教授法：筆者が名付けた大工原 (2010) の提唱する教授法。

## 参考文献

- 加藤豊二 (1999) 「談話標識「まあ」についての一考察」『日本語学・日本語教育論集』6, pp.21-36. 名古屋学院大学
- 川上恭子 (1993) 「談話における『まあ』の用法と機能 (一) —応答型用法の分類—」『園田国文』14, pp.69-79. 園田学園女子大学
- 川上恭子 (1994) 「談話における『まあ』の用法と機能 (二) —展開型用法の分類—」『園田国文』15, pp.69-79. 園田学園女子大学
- 小出慶一 (2009) 「現代日本語の意味・用法の広がりに関する記述的研究—多機能化, フィラー, フィラー化—」『日本・アジア研究』6, pp.1-37. 埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要
- 土屋菜穂子「日本語学習者のインタビュー応答時における言い淀み使用」『日本語教育学会』  
[https://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-eeting/files/JCLWorkshop\\_no3\\_papers/JCLWorkshop\\_No3\\_20.pdf](https://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-eeting/files/JCLWorkshop_no3_papers/JCLWorkshop_No3_20.pdf)
- 野村美穂子 (1996) 「大学の講義における文科系の日本語と理科系の日本語—「フィラー」に注目して—」『文教大学教育研究所紀要』5, pp.91-99. 文教大学
- 野田尚史 (2005) 『日本語教育文法』くろしお出版
- 山根知恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版
- 山内博之 (2009) 『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房
- 大工原勇人 (2010) 「日本語教育におけるフィラーの指導のための基礎的研究—フィラーの定義と個々の形式の使い分けについて—」神戸大学大学院国際文化科学研究科博士論文
- 富樫純一 (2002) 「談話標識「まあ」について」『筑波日本語研究』7, pp.15-31.筑波大学
- 이한규 (1999) 「한국어 담화표지어 ‘뭐’의 의미」『담화인지언어학회』6-1, pp.137-157. (「韓国語談話標識語「まあ」の意味」『談話認知言語学会』)
- 구종남 (2000) 「담화표지 ‘뭐’의 문법화와 담화기능」『국어문학』35, pp.5-32. (「談話標識「まあ」の文法化と談話機能」『国立文学』)

## 資料

- コーパス：朝日新聞記事データベース 「聞蔵II ビジュアル」  
読売新聞データベース 「ヨミダス歴史館」  
국립국어원 말뭉치 코퍼스 (国立国語院 マルムンチ コーパス)
- 新聞： 동아일보 (東亜日報)
- ニュース：URL： <https://www.youtube.com/watch?v=Da5hQK3N968>  
<https://www.youtube.com/watch?v=c2ZKDCkfguQ>  
URL： <https://www.youtube.com/watch?v=Q1detv7NoQY>
- テキスト：留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 (中級/中上級/上級)

(埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程)

## テイル用法の一研究

### —中国人日本語学習者の習得状況を巡って—

張 瑞深

#### 【キーワード】

テイル、進行中、結果残存、繰り返し、経験・記録

#### 【要旨】

本稿はテイルの四つの用法について、学習者の習得状況を明らかにした。

まずはテイルに関する四つの用法が学習者は習得しにくい、という問題を提出し、テイルの四つの用法をまとめた。

次にこれまでの様々なテイルに関する先行研究を整理した。

そして、先行研究で述べられているテイルに関する誤用とテイルの中国語の対応を検討したうえで、学習者にとって、結果残存と経験・記録の用法が特に習得しにくい、という仮説を立てた。

その仮説を検証するために、アンケート調査を行った。調査対象は中国人日本語学習者 20 人であり、テイル用法が正しいかどうかのチェックは母語話者三人にやってもらった。最終の結果は以下のようにまとめられる。

中国人日本語学習者の結果をもとにした習得の難易度による分類：

- ①進行中—習得率が高い
- ②繰り返し—習得率は高くないが、正答率が高い
- ③結果残存と経験・記録—習得率が低い

つまり、中国人日本語学習者は、母語干渉で、テイル用法の結果残存と経験・記録がもっとも習得しにくい。

#### 1. はじめに

日中両言語の対照研究において、テイルについての研究は多くみられる。テイルは中国人日本語学習者にとって習得しにくいと言われている。筆者が行ったアンケート調査の結果でも分かるが、留学生は結果残存の「テイル」(今は結婚している)や経験・記録の「テイル」(夏目漱石は若いころイギリスに留学している)に関する誤用が多くみられる。日本語の「テイル」のその二つの用法と対応する中国語の文法項目は完了形のため、母語干渉で誤用が頻出する。本研究はテイルの四つの用法、つまり「進行中」「結果残存」

「繰り返し」「経験・記録」を中心に、それぞれの使用状況をアンケートの形式で調査し、中国人日本語学習者の習得現状を解明した。中国人日本語学習者にとって、テイルの「結果残存」と「経験・記録」は習得しにくい、という結論にたどり着いた。その他、繰り返し用法においても学習者の理解に問題があるとわかった。

## 2. 問題の所在

金田一（1954：41-46）では、状態相のアスペクトを四つの種類に分類している。それは已然態、進行態（反復進行態）、将然態、単純状態態である。その後、いろいろな修正が行われ、吉川（1976：165-199）は「動作・作用の継続」「動作・作用の結果の状態」「単なる状態」「経験」と「くりかえし」、藤井（1976：110-114）は「動作の進行」「持続」「結果の残存」「経験」「単純状態」「反復」「存在」に分類している。

そのうち、「単なる状態」は「結果の状態」（本稿でいう結果残存）に極めて近いと吉川（1976：309）は述べている。二つの用法は近いので、本研究では単なる状態を結果残存に含め、四つの用法にまとめ、以下のように整理した。説明と例文は藤井（1976）と庵（2001）から引用したものである。

- (1a) 進行中（動作がある時間内継続すること、または現在継続中であること。例：今読んでいる）
- (1b) 結果残存（過去の動作・作用の結果が現在に残っている。例：今は結婚している）
- (1c) 繰り返し（瞬間の動作の繰り返しが続くこと。例：最近、有名人がどんどん死んでいる）
- (1d) 経験・記録（観察時以前の出来事を何らかの証拠に基づいて述べたり、主語の経歴として述べたりする。例：夏目漱石は若いころイギリスに留学している）

そして、それぞれの関係を筆者によってまとめると、表1のようになる。

	基本用法	派生用法
動作の繰り返し	進行中	繰り返し
動作の結果の継続	結果残存	経験・記録

表1 テイル用法のまとめ

菅谷（2002）、許（2005）などの先行研究では、すでに「進行中」より、「結果残存」のほうが学習者にとって習得しにくいという結果が証明されている。本稿の分類によると、「結果残存」と「経験・記録」は同じ動作の結果の継続を表す。したがって、習得の難易度も似ていると推測する。つまり、「結果残存」と「経験・記録」が特に学習者にとって理解しにくい、ということである。

そこで本稿では、「結果残存」と「経験・記録」だけではなく、テイルの四つの用法を中心に、それぞれの使用状況をアンケートの形式で調査し、中国人日本語学習者の習得現状を解明していく。

### 3. 先行研究

今までの先行研究では、テイルの基本的意味、つまり進行中と結果残存を中心に、活発に議論している。文法テスト：許（2005）、小山（2004）、インタビュー：許（2005）、作文データ：簡・中村（2010）などの調査が行われているが、概ね「進行中」の用法より「結果残存」用法のほうが習得しにくいことが報告されている。そこで本稿では、テイルの派生的用法も含めて全体的に考察していきたいと思う。

#### 3-1 進行中

金田一（1954：41）「進行態：ある動作・作用がそれ以前から始まっており、その時も継続中であり、さらにそれが後にまで持ち越されるべきことを表す。」

吉川（1976：165）「「動作」とは人又は動物についてその動きをいい、作用とは人又は動物以外のものについての動きを言う。「継続」とは動きがその過程の途中にあることを言う。ある動きが始まって、まだ終わらない状態にあることを言うのである。」

藤井（1976：110）「動作がある時間内継続すること、または現在継続中であることを表す。」

庵（2001）「進行中」というのは「ある観察時において動作または出来事が続いているということを表す。やや厳密に言えば、観察時以前からその動作または出来事が始まり、観察時以降もそれが一定の間続くということを表す。」

#### 3-2 結果残存

金田一（1954：39）「既然態：以前起こった動作・作用の結果がまだ存続している。」

吉川（1976：169）「「結果の状態」とは動作・作用が行われて、ある結果が現れた場合、その結果に注目してその（静的）状態を表すものである。」

藤井（1976：111）「過去の動作・作用の結果が現在に残っている。」

庵（2001）「「結果残存」は観察時以前に起こった出来事の結果が観察時にも存在していることを表す。」

#### 3-3 繰り返し

金田一（1954：42）「反復進行態：ある動作・作用が繰り返し行われていることを表す。」

吉川（1976：193-194）「いくつかのある動作・作用が適当なインターバルで時間の経過に沿って並んだもの、これを一つの過程とみなすことがこの「繰り返し」の意味を了解する前提になる；そして、動作・作用が、そうみなされた過程の途中にあることを示

すのが「くりかえし」だ。」

藤井 (1976 : 113) 「瞬間の動作の繰り返しが続くこと。」

庵 (2001) 「繰り返しは同一主体による動作・出来事が複数回存在する場合と、複数の主体による動作・出来事が存在する場合がある。」「しかし、寺村 (1984) が指摘しているようにどちらの場合にも個々の動作・出来事の「点」が集まって「線」になるという点は共通しており、両者を区別する必要は特にはない。」

### 3-4 経験・記録

金田一 (1954) の研究では、特に経験・記録という概念はないが、已然態に含まれていると考える。

吉川 (1976 : 192) 「金田一博士が已然態と考え、藤井氏がそれから分けて「経験」としたように、この「経験」は、「結果の状態」からの派生と考えられる。」

藤井 (1976 : 112) 「過去の動作・作用を現在から眺めた。」

庵 (2001 : 84) 「記録というのは、観察時以前の出来事を何らかの証拠に基づいて述べたり、主語の経歴として述べたりする際に用いられる用法である。」

## 4. 誤用及び中国語との対応

### 4-1 誤用例

(2) しかし、実は文教大学で勉強した私が将来どのようになるのか全く未知数だ。

【→勉強している】

(3) 砂場で遊んだとき、きれいな愛ちゃんが風船を持ってきた。

【→遊んでいた/遊んでいる】

菅谷 (1997 : 29)

(4) (今年の三月ごろに日本に来たばかりなので)日本の生活にまだ慣れません。

【→慣れていません】

(5) 駐車場へ行ったら、車はもうなくなった。

【→なくなっていた】

菅谷 (1997 : 31)

さらに、「学習者が使用するテンス・アスペクト形式「ル、タ、テイル、テイタ」のうち、「ル、タ」だけで9割以上を占め、「テイル、テイタ」は使われること自体が少ない(山口 2013 : 37)。」からわかるように、学習者は「テイル、テイタ」を使う意識は弱い。だから「テイル」を使うべきところに「ル、タ」を使いやすいのであろう。

### 4-2 中国語との対応

許 (2005 : 20) によると、「アスペクト表現は、日本語では、動詞の語尾変化や後接する補助動詞などの形式で表すのに対し、中国語では動詞の形を変化させず、動詞の接尾詞であるアスペクト助詞「着」「了」などによって表す。」

また、進行中と対応できるのは中国語の「在/正 (在)」である。経験相については中



国語の「过」である。

ここで仮説を立てたいと思う。「中国人日本語学習者にとって、テイルの四つの用法の中で、母語干渉が原因で一番習得しにくいのは「結果残存」と「経験・記録」である。」

この仮説を証明するために、具体的な状況をアンケート調査で解明していく。

## 5. アンケート調査について

### 5-1 アンケート調査

調査対象は母語話者3人と中国人日本語学習者20人である。若者を調査対象にすると、言葉のバリエーションが多いと予想するため、若者言葉を避けるために、30代から40代の母語話者を選んだ。学習者はN1レベルの在日中国人を選んだ。

調査で使う文のうち、「進行中」「結果残存」「繰り返し」「経験・記録」はそれぞれ五つの文があり、スルの文、つまり「テイル」に関する文ではないものも20文混ぜている。調査は計40文で、2つの動詞のうちの自然だと思う方に○をつけてもらう。両方とも自然だと思う場合は、両方に○をつけてもらった。

#### 【進行中】の設問：

2. ある日、私の家の裏側に（住む・住んでいる）「裏のおばあちゃん」が家に上げてくれた<sup>1</sup>。
11. お昼休みの時間だ。夫は今頃会社で弁当を（食べる・食べている）だろう。
12. ミラーさんは今電話を（かける・かけている）。
22. さあ、遅れるわ。校長先生が（待つ・待っている）んだから。
28. 砂場で（遊ぶ・遊んでいる）とき、きれいな愛ちゃんが風船を持ってきた。

#### 【結果残存】の設問：

3. そこにペンが（落ちた・落ちている）。
13. （猫の死体を発見して）猫が（死んだ・死んでいる）。
17. 急いで、会議は始まっているよ。
25. きちっと（しまった・しまっている）窓もあれば、開いたままのもあります。
31. 家族の話によると、私の故郷の町は都市開発が急速に進んでいるようだ。次に帰国した時には、町はすっかり（変わった・変わっている）かもしれない。

#### 【繰り返し】の設問：

6. 家族に会いたいから毎日テレビ電話を（する・している）。
14. 日本の童話の父をしのぶ多くの人々が、今も（訪れる・訪れている）。

---

<sup>1</sup> この文は具体的な進行中用法ではないが、学習者は進行中だと理解してしまうため、ここでは拡張的な用法として混ぜておく。

20. 「どう、調子は？」  
「うん、いいよ。毎朝ジョギングを（する・している）から。」
29. 近年日本では交通事故で年1万人ぐらいの人が（亡くなる・亡くなっている）。
35. 海の上には、昼となく夜となく、絶えず波が（立つ・立っている）。

**【経験・記録】** の設問：

7. この筆者は、要点をはっきりさせ、文章の組み立てを考えて（書いた・書いている）。
18. 夏目漱石は若いころイギリスに留学（した・している）。
19. 父は若いころたくさん（遊んだ・遊んでいる）。だから、若い者の行動に理解がある。
24. 山下教授をご紹介します。教授は古代史の権威で、これまでにすぐれた論文をたくさん（発表した・発表している）。
38. あの子とすでに（知り合った・知り合っている）。

### 3-2 母語話者と学習者の比較

**【進行中】**

母語話者も学習者もテイルを選んだ。その理由はわかりやすい。日本語の教科書では、テイルに関する文法項目のうち、基本用法として最初に導入されているのが進行中である。したがって、学習者にとって印象深いし、多く練習されている文法項目であるだろう。もう一つの理由は、進行中の場合、テイルに対応する中国語として「正在/在」が存在することである。つまり、母語干渉があまりないことである。

**【結果残存】**

母語話者はほぼテイルだけを選んだのに対して、学習者はタを選んだ回答が多かった。例文を中国語に翻訳する場合は全部「了」と訳せる。中国語の「了」は日本語のタと対応することが多く、しかも中国語の完了アスペクトは「了」で表す。中国人日本語学習者は、「了」と訳せるために母語に影響され、タを選んでしまったのだと考えられる。

**【繰り返し】**

母語話者は派生的用法「繰り返し」について、「両方とも使える」を選んだ回答が多く見られる。テイルとルを選んだ回答は、ほぼ同数であった。特に第14問は10対10で均等に分かれた。しかしその中で注目したいのは、母語話者と比べて、他の用法では「両方とも使える」を選んだ数がきわめて少なかった学習者が、繰り返しについては二つの設問でそれを選んだことである。

日本語教科書『みんなの日本語』には、テイルの繰り返し用法は載っているが、派生的用法なので、おろそかにされやすい。学習者の結果を見ると、母語話者と似ている傾

向がある。つまり、テイルを選んだ学習者も、ルを選んだ学習者もいる。しかし、だから学習者は繰り返し用法を完全に習得している、とは言えない。なぜかという、中国語の繰り返し表現は日本語と違うからである。中国語に翻訳すると分かるが、繰り返しの相当する部分は全部中国語では無標の形（動詞の原形）になる。したがって、中国人母語話者は、日本語で繰り返しを表す場合にも、無標（テイルを使わない）という傾向がある。

しかし日本語の教科書では、テイルの他の用法を教えるときに繰り返し用法も一緒に提示するのが普通である。これをきちんと習得した学習者は、繰り返しを表すときにテイルを使うのだらう。以上をまとめると、テイルを選んだ人は、日本語の視点から出発して判断したのである。一方、ルを選んだ学習者は、中国語からの母語干渉で、無標（テイルを使わない）の選択肢を選んだのであろう。そして、「両方とも使える」を選んだ学習者が、もっとも高い日本語レベルを持っている、と判断できる。

#### 【経験・記録】

母語話者は「テイル」を選んだ回答が多かった。『みんなの日本語』で、最後に提示されるのが経験・記録である。派生的用法のうち、それは一番理解しにくいと思われる。学習者は、タを選んだ回答が多かった。中国語では、経験・記録に相当する部分は全部「过～了」と訳される。したがって、ここにも母語干渉があると判断できる。

以上から「中国人日本語学習者にとって、テイルの四つの用法の中で、母語干渉が原因で習得しにくいのは「結果残存」と「経験・記録」である」という仮説は正しいものと考えられる。

## 4. おわりに

本稿はテイルの四つの用法について、学習者の習得状況を明らかにした。

先行研究で述べられた、テイルに関する誤用とテイルの中国語との対応を検討したうえで、学習者にとっては結果残存と経験・記録が特に習得しにくい、という仮説を立てた。

その仮説を検証するために、アンケート調査を行った。調査対象は中国人日本語学習者 20 人であり、テイル用法が正しいかどうかのチェックは母語話者三人にやってもらった。最終の結果は以下のようにまとめられる。

中国人日本語学習者の結果をもとにした習得の難易度による分類：

- ①進行中一習得率が高い
- ②繰り返し一習得率は高くないが、正答率が高い
- ③結果残存と経験・記録一習得率が低い

以上のように、中国人日本語学習者は、母語干渉によって、テイル用法の結果残存と経験・記録がもっとも習得しにくい、ということが明らかになった。

## 参考文献

- 庵功雄 (2001) 「テイル形、テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』4, pp.75-94. 一橋大学
- 簡卉雯・中村渉 (2010) 「台湾人日本語学習者の「ている」の習得に関する縦断研究—「結果の状態」の用法を中心に—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5, pp.83-92. 東北大学高等教育開発推進センター
- 許夏珮 (2005) 「日本語学習者によるアスペクトの習得」くろしお出版
- 金田一春彦 (1954) 「日本語動詞のテンスとアスペクト」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 小山悟 (2004) 「日本語のテンス・アスペクトの習得における普遍性と個別性—母語の役割と影響を中心に—」『言語と教育』小山悟・大友可能子・野原美和子 (編), pp.415-436. くろしお出版
- 菅谷奈津恵 (2002) 「第二言語としての日本語のアスペクト研究習得概観 (第1章文法形式と機能の習得と使用)」『言語文化と日本語教育. 増刊特急号, 第二言語習得・教育の研究最前線』pp.70-86. お茶の水大学
- 菅谷有子 (1997) 「中国人日本語学習者のテンス・アスペクトの誤用—連体修飾節を中心に—」日本語教育学会秋季大会
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスⅡ』くろしお出版
- 藤井正 (1976) 「「動詞+ている」の意味」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 山口薫 (2013) 「外国人留学生の作文に現れるテンス・アスペクト形式の分析」『南山大学国際教育センター紀要』14, pp.25-39. 南山大学国際教育センター
- 吉川武時 (1976) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程)

## 「ていく・てくる」と“去・来”の日中対照研究

陳 湘奉

### 【キーワード】

補助動詞、方向補語、日中対応関係、非用、中国人日本語学習者

### 【要旨】

日中両言語において、「行く・来る」と“去・来”は空間的な移動を表す本動詞として対応し、それぞれ、あるものが基準点から「遠ざかる・近寄る」という移動行為を表す。つまり、本動詞としては、「行く・来る＝去・来」という対訳の構図で捉えられ、対応関係を持つと言える。

一方、もともと空間移動を表わす動詞から派生した補助動詞として用いられる場合にも、日本語における「ていく・てくる」の意味用法、文法構造、表現形式と、極めて類似した機能を、中国語の“去・来”も持つ。しかし、完全に一致するわけではないため、中国人日本語学習者は母語の影響で、「ていく・てくる」の補助動詞としての用法についてよく理解できないことがよく見られる。

「行く・来る」は移動動詞の中で最も基本的な動詞であるだけに、「ていく・てくる」の補助動詞表現も日常生活で多用されているが、中国人日本語学習者には、理解できないために産出する誤用や、使えないために敬遠する非用の傾向もよく見られ、習得の難関とされている。

空間移動本動詞から派生した補助動詞としての用法には、空間用法より遥かに複雑な時間的アスペクト表現や心理的認知表現があり、これらの方が難しいと思われる。したがって、中国人日本語学習者による「ていく・てくる」の習得を助けるため、日中両言語の繋がりを見つけることが有効であり、日中対照分析を行う必要がある。

本研究では、まず、日本語の「ていく・てくる」を主な研究項目とし、どのような多様な用法が存在するかを明らかにする。その際には、先行研究における用法を参考にす。次に、中国語の“去・来”を対照項目とし、そうした用法に対応する中国語訳と対照しながら考察・分析を行う。そして、中国人日本語学習者の使用実態およびその原因と合わせて、その習得に対して効果的な提言を行う。

### 1. はじめに

日中両言語において「行く・来る」と“去・来”は、選ばれた基準視点からの空間的移動を表わす本動詞として「行く・来る＝去・来」という対応関係を持つと従来の研究

では一般的に指摘されている。その一方、補助動詞として用いられる場合には、次のような対応関係を持たない例が少なからず存在する。

【非対応】(1) 外で 変な音 がした から ちょっと 見てくる わ。  
外で がした 変な音 ていく 見る  
 「外面 有 奇怪的声音, 我 因 看看。」

(1) を見ると分かるように、日本語原文での「てくる」は、中国語訳文において“来”と対応せず、“去”と対応する。加藤(2014)では、以上のような日中間の差異に対して、「ある場所から別の場所へ行って何かをして元の場所に戻る」という事態を表現する際、中国語では行く過程を強く意識するのに対して、日本語では戻る過程をより強く意識する」と、その理由を解説している。

日本語の「ていく・てくる」と中国語の“去・来”は、どちらも対応する移動本動詞から補助動詞として派生したものであり、明らかな類似性が存在する一方、(1)のように各言語の特性によって対応関係もズレてくるものと思われる。また、空間移動を表わすプロトタイプ用法より遥かに複雑な拡張用法の方に、さらなる多様な対応関係が存在するわけである。このように、母語からの影響や干渉の存在によって、中国人日本語学習者の「ていく・てくる」の誤用や非用の状況がよく見られ、補助動詞用法の習得はよく難関とされている。

以上から、中国人日本語学習者の習得を助けるためには、各用法での日中両言語の間の繋がりを洗い出す必要があり、そのため、日中対照分析を行うべきである。本研究では、日本語の「ていく・てくる」における多様な用法を明らかにし、中国語の“去・来”と対照して両言語間の対応関係を考察する。そして、中国人日本語学習者の使用実態およびその原因を分析し、その習得に対して、効果的な方法などを提案する。

## 2. 問題の所在

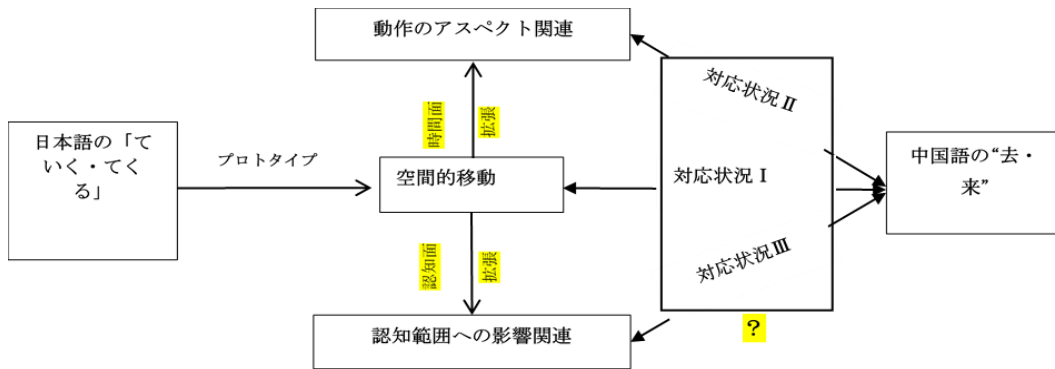
### 2-1 中国人日本語学習者の誤用を防ぐための日中対照分析

上述の(1)を見ると、具体的な移動を表す場合において、「てくる」と中国語の“来”が一般的な対応関係を持つ一方、非対応関係も存在するということが分かった。水谷(2001)は、外国人学習者にとって補助動詞の習得が難しい原因について、「動詞に動詞を重ねるという使い方になじめない場合もあり、また同じ補助動詞の用法が多岐にわたって複雑であることも考えられるが、最も大きな原因は補助動詞が持つ心理的な要素、とくに立場志向性の理解が十分でないためであろうと考えられる」と指摘している。

また、補助動詞としての「ていく・てくる」には、具体的な空間移動を表わすプロトタイプ用法に限らず、アスペクトに関わる時間的な変化や継続と、認知範囲への働きかけを表わす拡張用法も存在する。その上、中国語の類似表現の“去・来”との間には、(1)より複雑な対応状況が現れるから、中国人日本語学習者にとっては、母語からの

影響などで習得が困難になると考えられる。そのため、日本語の「ていく・てくる」と中国語の“去・来”が補助動詞として用いられる場合に、両言語の間の繋がりを解明することが、母語干渉の誤用を防ぐ有効な手段である。

以上を踏まえて、第5章では、日本語の「ていく・てくる」と中国語の“去・来”を対象として、日中の対応状況について対照分析を行う。



【図 A】 日中対照の考察中心

具体的には、図 A のように、「空間的移動」を表わす基本的な用法、およびそれから拡張した時間の流れに伴う「動作のアスペクト関連」用法と、主体の認知に働きかける「認知範囲への影響関連」用法、という三つのカテゴリーに分けて、それぞれ日中対照を行う。その結果に基づき、対応関係と非対応関係の原因を分析していく。

## 2-2 中国人日本語学習者の非用と習得への提言

JCK 作文コーパスのデータ収集の結果、および中国人日本語学習者に対して行ったアンケート調査の結果では、中国人日本語学習者においては、誤用のみならず非用の実態も見られている。したがって、第6章では、前章の日中対照分析および先行研究を踏まえて、その結果の原因を解明する。最後に、以上のすべての分析結果から、中国人日本語学習者の「ていく・てくる」の習得を助ける方法を考える。

## 3. 研究方法

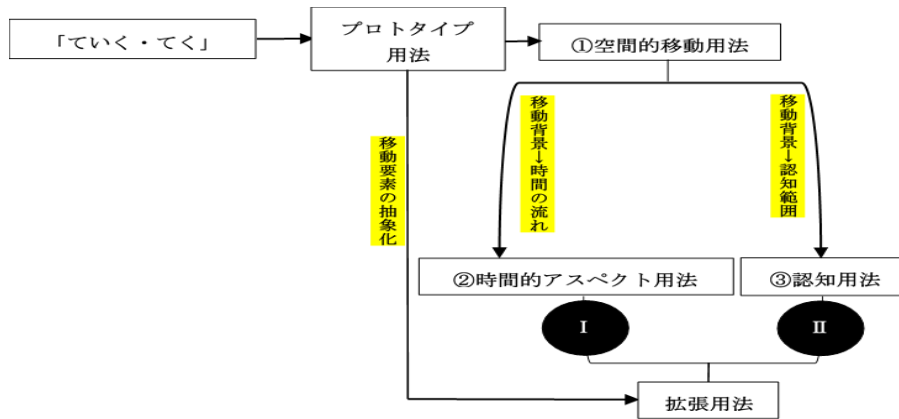
本研究では、中国人日本語学習者の「ていく・てくる」の習得を助けるために、その過程における誤用と非用の実態を課題として、それぞれ先行研究を参考にしながら日中対照分析を行い、また使用調査の結果も踏まえて、原因の分析を行う。

森田 (1994 : 90-99) は「意味論的な機能分析から「ていく」・「てくる」を空間と時間におけ、空間的意味は移動という具体的な意味を表わす本動詞の機能を果たしており、時間的意味はそれぞれ抽象的意味と機能的作用を表わす補助動詞の機能を果たす」と述べている。また、近藤 (1985 : 25-34) は「「～テクル」「～テイク」の用法を空間型と時間型との二つのカテゴリーに分けている。さらに時間型を変化型と継続型との二種類

に分類する。」と述べている。これらの先行研究を援用した上で、上述した二つの課題に対して次のようなステップに従い、それぞれ分析を進めていく。

### 日中対照分析

- ① 「ていく・てくる」の様々な用法について分類すること。



【図 B】 本稿における分類方法

具体的には、先行研究を参考にし、図 B で示した通り、空間移動を表わす「プロトタイプ用法」と、それから派生した時間的アスペクトを表わす「拡張用法 I」の「時間的アスペクト用法」と、認知範囲への影響を主に強調する「拡張用法 II」の「認知用法」に分類する。

- ② 上述の分類方法に従い、日本語例文を挙げ、その中国語訳文と対照することで、「ていく・てくる」と“去・来”の日中両言語間の対応状況を考察する。
- ③ 上記の対照分析の結果に基づき、対応／非対応の原因について分析する。

### 非用の原因の分析

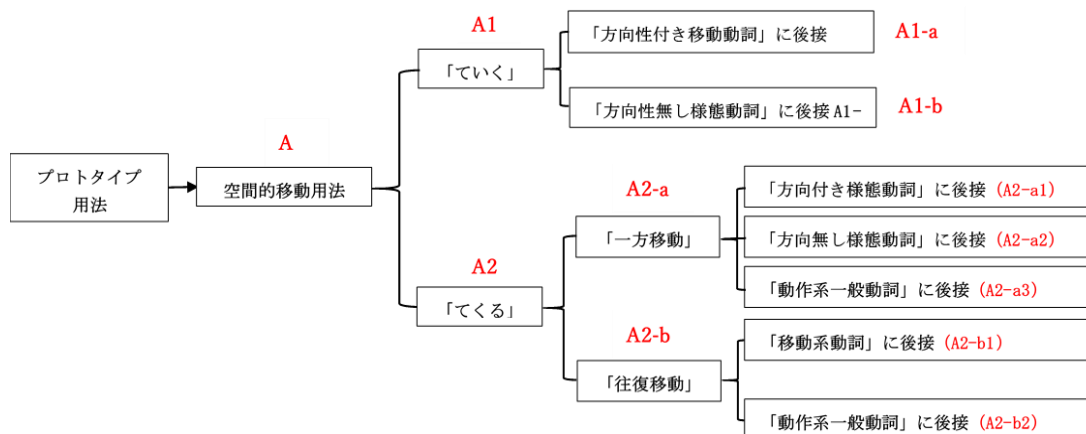
- ① 中国人日本語学習者と日本人母語話者の「ていく・てくる」の使用数量の比較調査
- ② 中国人日本語学習者の使用実態のアンケート調査（非用率調査）
- ③ 以上の結果を踏まえて、「ていく・てくる」への習得に対して適切な提言を行う。

## 4. 「ていく・てくる」と“去・来”の日中対照分析

### 4-1 プロトタイプ用法 — 空間的移動用法

まず、「ていく・てくる」の「プロトタイプ用法」は、本来の移動動詞の「行く・来る」の特徴を受け継いで、前接する動詞に主導的、あるいは補助的な方向性を付与する。意味的には、対象の位置変化という空間的移動を表す用法であり、本研究では、この「空間的移動用法」を代表として、日中対照分析を進めていく。





【図C】「プロトタイプ用法」における「ていく・てくる」の分類

「プロトタイプ用法」として認定した「ていく・てくる」の「空間的移動用法」における細かい分類は、図Cのようである。図Cで示したように、分類された様々な用法に番号を付けて、「空間的移動用法」を「A」で、「ていく」を「1」で、「てくる」を「2」で表示すると、その下位分類用法は、それぞれ次のように順番に並べられる。

「ていく」:

- 「方向性付き移動動詞」に後接 — A1-a
- 「方向性無し様態動詞」に後接 — A1-b

「てくる」:

- 「一方移動」 — A2-a
- 「方向付き様態動詞」に後接 — A2-a1
- 「方向無し様態動詞」に後接 — A2-a2
- 「動作系一般動詞」に後接 — A2-a3
- 「往復移動」 — A2-b
- 「移動系動詞」に後接 — A2-b1
- 「動作系一般動詞」に後接 — A2-b2

次に、以上の細かい分類用法に対して、それぞれ具体例を挙げてみよう。

**A1-a【対応】** (2) 日が 西に 沈んでいきます。

日が 西に 沈む ていく  
「太陽 朝西邊 落 困。」

**A1-b【対応】** (3) 少年が 学校に 走っていった。

少年 学校に 走る ていく た  
「少年 朝学校 跑 困 了。」

**A2-a【対応】**

**A2-a1** (4) 先生は 教室に 入ってきました。

先生 入る 教室に てくる た  
「老师 进 教室里 困 了。」

**A2-a2** (5) 彼は 走ってきたので 汗を かい た。

彼は 走る てきた ので かく 汗を た  
「他 跑 来 的, 所以 出 汗 了。」

A2-a3 (6) この ドレス は、貸衣装屋 から 借りてきた。

この ドレス は から 貸衣装屋 借りる てきた  
「这件 连衣裙 是 从 租衣服的地方 借 来 的。」

#### A2-b【非対応】

A2-b1 (7) 「行ってきます。」

行く  
「“我 走 了。”  
“我 去 了。”

A2-b2 (8) 今日は、なんの 映画を 観てきた の。

今日は ていく 見る なんの 映画 た の  
「今天 去 看 什么 电影 了 吗？」

以上の日本語例文とその中国語訳文を対照すると、A2-bの「往復移動」を表す「てくる」以外は、すべて日中の対応関係が成立している。対応関係を持つ「空間移動用法」の場合、「ていく・てくる」と中国語の“去・来”は、移動本動詞からの移動特徴を受け継ぐ。また、(2)～(6)から分かるように、五つの例文はすべて実質的な空間移動を表わし、その先行動詞に「ていく・てくる」を後接して表した対象の移動は、「いく・くる」で表す方向性と一致している。一方、「往復移動」を表す「てくる」で対応関係を持たないのは、A2-b1とA2-b2で、その理由が異なる。

まず、日本語では、「てくる」が移動動詞に後接すると往復移動を表わすが、そのうちの「復」の移動過程は起点も発生も曖昧であるから、「くる」の移動を厳密に表す中国語の“来”とは対応しにくいのだと考えられる。

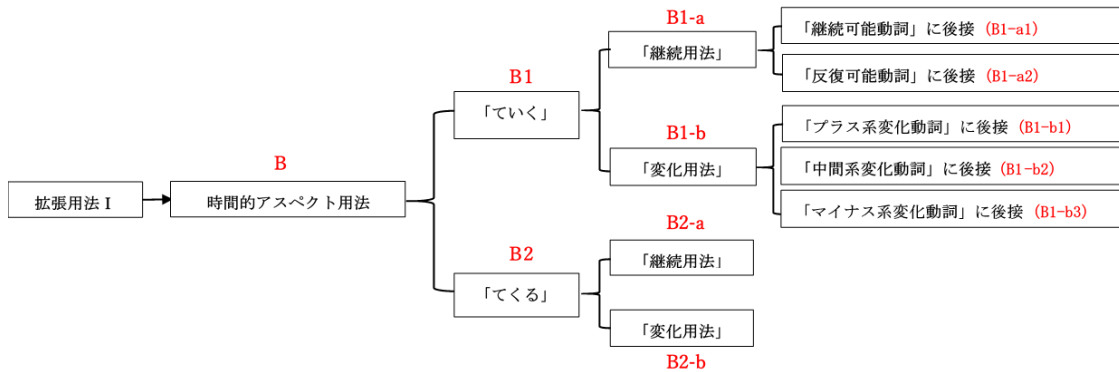
次に、A2-b2の場合には、(8)を見ると分かるように、「てくる」は“来”と対応関係を持たず、“去”と対応する。本動詞の移動の特徴を受け継ぐという点からいえば、加藤(2006, 2011)において指摘された、日中両言語の移動視点における差異である、と言える。また、高橋(2002)も指摘したように、「いく、する、くる」の3過程のうち、コトバに表現されているのが、日本語は前の2過程で、中国語は後の2過程なのである。この点は日中両言語における対立した特徴である。このような相違点から、前述したような対応状況になるのだと考えられる。

### 4-2 拡張用法 I — 時間的アスペクト用法

次に、「ていく・てくる」の「拡張用法」を見てみよう。4-1の「プロトタイプ用法」から、移動要素の一部、あるいは全部が抽象化された用法である。位置変化ではなく、事象変化を表わし、メタファーによる意味拡張に属する。本稿で扱う「拡張用法」は、この4-2の「時間的アスペクト用法」と、次の4-3の「認知的用法」から成る。

「ていく・てくる」の「時間的アスペクト用法」は、先行動詞で表わす動作による効果が、空間における位置変化ではなく、時間の流れに沿って主体に起きる変化—「変化の発生」、または変化から生まれ、そして維持されつつある新しい結果状態—「態の継続」

を表わす。本稿では、細かい分類をそれぞれ「変化用法」と「継続用法」と名付けた。「空間的移動用法」に比べて、移動ルートはそれぞれ空間軸と時間軸となり、主体はそれぞれに物と事である、という二点が、プロトタイプ用法と異なる。



【図D】「拡張用法 I」における「ていく・てくる」の分類

「拡張用法 I」の「時間的アスペクト用法」における分類用法は、図 D に示したようである。4-1 に倣い、分類された様々な用法に番号を付けて、「時間的アスペクト用法」を「B」で、「ていく」を「1」で、「てくる」を「2」で表示すると、その下位分類用法は、それぞれ次のように順番に並べられる。

「ていく」:

- 「継続用法」 — B1-a
- 「継続可能動詞」に後接 — B1-a1
- 「反復可能動詞」に後接 — B1-a2
- 「変化用法」 — B1-b
- 「プラス系変化動詞」に後接 — B1-b1
- 「中間系変化動詞」に後接 — B1-b2
- 「マイナス系変化動詞」に後接 — B1-b3

「てくる」:

- 「継続用法」 — B2-a
- 「継続可能動詞」に後接 — B2-a1
- 「反復可能動詞」に後接 — B2-a2
- 「結果残存動詞」に後接 — B2-a3
- 「変化用法」 — B2-b
- 「変化系動詞」に後接 — B2-b1
- 「形容詞+なる」系組合動詞」に後接 — B2-b2

4-1 と同様、それぞれ具体例を見てみよう。

**B1-a【可対応】** (反復可能動詞の場合を代表として)

B1-a2 (9) 今後 も わが社 の 発展の ために 努力して<sup>ていく</sup> つもりだ。

今後 も つもり ために わが社 の 発展 努力する (下因)。

「継続用法」の「ていく」は、ある動作や状態が、時間の流れに沿って、ある時点か

ら相対的に安定しているある状態を維持しながら、またはある動作を繰り返し進行しながら、未来まで継続することを表わす。そのため、継続の意味を持ち、明らかな変化を表さない先行動詞に前接する必要がある。

また、「継続用法」と呼ばれる以上は、「継続可能動詞」はもちろん、(9)の「努力する」のような「反復可能動詞」にも適用できる。動作の進行を点に譬えると、繰り返して進行すれば点をつないで線になるように、未来に向けた時間の流れにおけば継続の意味が表わせるからである。

また、(9)の日本語原文と中国語訳文を対照すると、「ていく」と“去”が対応関係を持つことが分かる。杉村(1982)によると、中国語は時間の流れを「上→下」で表わす言語であり、日本語で以後への継続状態を表す「先行動詞+ていく」は、中国語では時間軸における「下へ」と対応するのである。

一方、杉村(1982)によると、「中国語では、語義の中に「上へ」或は「下へ」という方向性がすでに内在している動詞がある」という。その場合、中国語では、“去”を使わず動詞のみで表わすことができる。

また、B1-a1が日本語と対応関係を持つ理由は、上述したB1-a2の場合と同じである。

**B1-b【非対応】** (プラス系変化動詞の場合を代表として)

B1-b1 (10) その映画で 評判になって 以来、彼女の人気は 日増しに 高まっていった。

以来 その 映画 評判になる 彼女の人気 日増しに 高まる  
「自从 那部 电影 走红 以后, 她的人气 日渐 高涨。」

\*【可対応】(マイナス系の変化動詞の場合)

B1-b3 (11) 日本では さらに 子供の数が 減少していく ことが 予想される。

予想される 日本では 子供の数 さらに 減少する ていく  
「预计 日本的 儿童人口数 会 进一步 减少 (下<sup>ていく</sup>)。」

「変化用法」の「ていく」は、ある時点から変化が発生し、未来への時間の流れに沿って、変化が進行し続けながら、その効果が重なっていき、全体のレベルが上がっていくことを表わす。そのため、変化の意味を持つ動詞に伴って使われる。そのうち、(10)のようにプラスの変化を表す場合の他に、マイナスの変化を表す場合(11)も、中間の変化を表す場合も存在する。

(10)(11)の二例文、およびその中国語訳文を見ると、まず、「変化用法」での「ていく」は“去”と対応関係を持たないと言える。なぜなら、前述した杉村(1982)が指摘した中国語動詞に内在する方向性と関わるからである。

その一方、中国語の“去”は離れる意味のほか、消失の意味も含んでいる。したがって、積極的な意味とは共起しかねるが、(11)で示したように、マイナスの変化を表す消極的な意味とは共起できる。したがって、マイナス系の変化動詞に後接する場合、“去”と対応関係を持てるわけである。

**B2-a【非対応】** (反復可能動詞の場合を代表として)

B2-a2 (12) 今まで 日本語を 勉強してきました。

勉強する 日本語 今まで  
「学 日语 至今。」

\*【可対応】 (動作反復の結果による影響が後続する場合)

(12') 今まで 日本語を 勉強してきて、もう 話せるようになった。

結果による影響：日本語が話せる

日本語 今まで 勉強する てきて もう 話せるようになった  
「日语 至今 学 (下来) 已经 能说了。」

「継続用法」の「てくる」は、B1-aと同様、ある状態や動作が、時間の流れに沿って基準時点まで継続したことを表す。しかし、B1-aと異なるところが二つある。

一つ目は、先行動詞として、「継続可能動詞」「反復可能動詞」のほかに、「結果残存動詞」も取れることである。

二つ目は、B2-aは過去の出来事を振り返ることを表わすため、B1-aのように、基準時点における進行状況を確認することより、基準時点までの累積状況の方が強調される。だからこそ、ある時点での静態的な結果を表す傾向を持つB2-aの「てくる」には、進行する動態のイメージが「ていく」より薄く、補助動詞として使われた場合にも移動のイメージが強く残る中国語の“来”とは対応しにくい。これが対応関係を持たない主因であると考えられる。

一方、B2-a2において対応関係を持つのは、動作反復の結果による影響が後続するからだと考えられる。なぜなら、影響が後続すると、自然に「動作反復一段階の結果—影響」のような動的に進む流れが出来て、そのため、中国語の“来”と対応できるようになるからである。(12')では対応関係を持てるのは、そのような理由による。このとき、“来”ではなく、“下来”と対応しているのは、(9)の「ていく」と“下去”の場合同じである。

**B2-b【非対応】** (変化系動詞の場合を代表として)

B2-b3 (13) 日がたつにつれて、白鳥の数が ふえてきました。

白鳥の数 日がたつにつれて ふえる  
「天鹅的数量 一天天 增加。」

(13') 白鳥の数が ふえました。

白鳥の数 ふえる た  
「天鹅的数量 增加 了。」

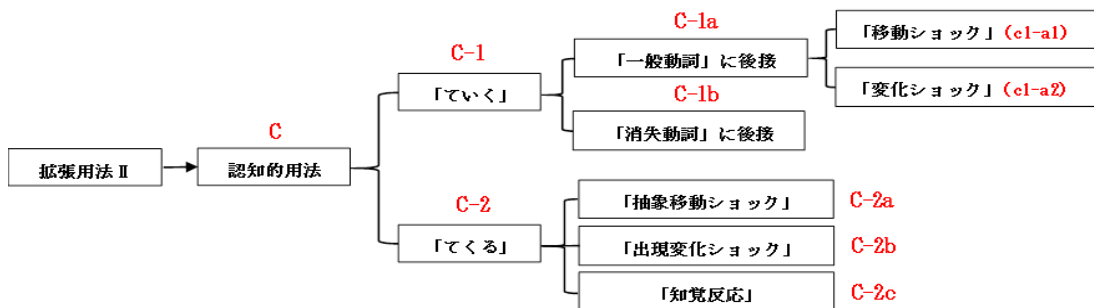
「変化用法」の「てくる」は、B1-bと同様、変化の開始時点から基準時点までの変化の進行に伴って、その効果が積み重なり、最後の基準時点で全体のレベルが上がっている様子を振り返る。と同時に、変化によって達した結果、あるいはその時の状況も示される。(13)で示したように、日本語原文と中国語訳文が対応関係を持たないのは、中

国語の変化動詞が含む方向内在性のほかに、加藤（2006）が指摘した日中視点移動の差異による。

### 4-3 拡張用法Ⅱ — 認知的用法

最後に、4-2 での「拡張用法Ⅰ」の「時間的アスペクト用法」に続き「拡張用法Ⅱ」の「認知的用法」について日中対照分析を行う。「ていく・てくる」の「認知的用法」は、先行動詞で表わす働きかけによって、主体の認知範囲に影響を及ぼし、その意識されたショックを強調するため、源となる動態事象を表す用法である。また、「空間的移動用法」「時間的アスペクト用法」と異なるのは、ただ移動・変化という事実を述べるのではなく、それをすべて抽象化した背景に置いておき、認知への影響のみを強調するところである。

この用法は、従来の研究では、よく「てくる」しか持たない特殊用法として扱われている。確かに、「ていく」のほうは、「てくる」より主体認知に対して影響の効果が弱く、それに用例もそれほど多くないが、本稿では一緒に考察分析していく。



【図E】「拡張用法Ⅱ」における「ていく・てくる」の分類

「拡張用法Ⅱ」の「認知的用法」における分類用法は【図E】に示したようである。4-1、4-2に倣い、分類された様々な用法に番号を付けて、「認知的用法」を「C」で、「ていく」を「1」で、「てくる」を「2」で表示すると、その下位分類用法はそれぞれ次のように順番に並べられる。

「ていく」:

- 「一般動詞」に後接 — C1-a :
- 「移動ショック」 — C1-a1
- 「変化ショック」 — C1-a2
- 「消失動詞」に後接 — C1-b

「てくる」:

- 「抽象移動ショック」 — C2-a
- 「出現変化ショック」 — C2-b
- 「知覚反応」 — C2-c

それぞれ具体例を見てみよう。

C1-a【対応】

C1-a1 (14) しかし、突然、その天秤は 急激に 左へ 傾いていった。

しかし 突然 その天秤は 急激に 左へ 傾く ていく た  
「可 突然间, 那天平 猛地 向左 倾 过<sup>去</sup> 了。」

(14) のような「移動ショック」を表す「認知的用法」は、ある移動がもたらす認知範囲からの消失による影響を強調するために使われる。認知範囲への影響と移動発生の現場性を特徴とし、普通の移動を表す「空間的移動用法」の分類と区別する。

C1-a2 (15) 徹夜の せいか、目が 落ち窪んでいった。

せいか 徹夜 目が 落ち窪む ていく た  
「因为 熬夜, 两眼都 凹进 <sup>去</sup> 了。」

一方、(15) の表す「認知的用法」は、(14) と同じように認知範囲へ影響をもたらすことを表すが、仕掛けるのが移動による消失ではなくて、変化による消失である。そのため、「変化ショック」と名付けた。認知範囲への影響と変化発生の現場性を特徴とし、「変化用法」とは区別する。

上記の二例及びその訳文を対照すると、「認知的用法」での C1-a の分類には、「ていく」と“去”が対応関係を持つ。その理由として、次の二点を挙げられる。

- ① 「移動ショック」→実質的な移動 }  
「変化ショック」→抽象的な移動 } 本動詞の移動特徴が働く→「ていく」⇔“去”
- ② 認知範囲における消失現象に着眼する「ていく」⇔“去”の持つ「消失」の動態イメージ

①②は、それぞれ「ていく」も“去”も持つ「移動性」「消失性」に対応する。この場合の対応関係が成立するのは、「消失性」が主因であり、「移動性」が副因である。

**移動性 < 消失性**

C1-b【非対応】(16) 見てごらん、虹が どんどん 消えていくよ。

見てごらん 虹が どんどん 消える  
「你瞧, 彩虹 眼看就 不见了。」

(16) のように、消失を意味する動詞に後接する場合に「ていく」で表す「認知的用法」は、「有→無」という現象を意味する、それに加えて、アスペクト・マーカースとして、完成態を示す役割も果たしている。

上例の原文と訳文を対照すると「ていく」と“去”が非対応関係を持たないことが分かる。それは、中国語の消失動詞に内在する方向性が、消失変化の方向を指示するだけでなく、失ったという完成態をも表せるからである。そのため、“去”のような補助的成分を添えると、意味が重なってしまい、逆に不自然になるからである。

C2-a【対応】 (17) 雨が 降ってきました。

雨が 降る てくる た  
「雨 下起 来 了。」

C2-b【対応】 (18) 眼が くらんできました。

眼が くらむ できた  
「眼 晕 起 来。」

(17) (18) が代表する C2-a と C2-b の「認知的用法」は、C1-a1 と C1-a2 と同様、認知範囲に働きかける、ショックの源として移動と出現変化を表す用法である。「ていく」「てくる」ともに、影響と現場性という二つの共通の特徴を持つ。

また (17) (18) とともに、「てくる」と“来”が対応関係を持つことが分かる。その理由として、C1-a の対応関係と同様、次の二点を挙げられる。

①抽象的な移動→本動詞の移動特徴が働く→「てくる」⇔“来”

②認知範囲における出現及び存在に着眼する「てくる」⇔“来”の持っている「現場に到着して中に入って残る」の動作から結果までの動態イメージ

C1-a とは異なり、この場合の対応関係が成立するには、「出現性」が主因であり、「移動性」が副因である。

### 移動性 < 出現性

また、C2-b では、「てくる」に対応して、“来”より“起来”が多用される。なぜなら、この場合の「てくる」は、出現とともに、事象の開始をも含意し、中国語の“起来”で表す「開始義」と合うからである。

C2-c【非対応】 (19) 少しずつ 霧が 晴れて、富士山が 見えてきた。

霧が 少しずつ 晴れる 見える てきた 富士山が た  
「雾 渐渐地 散开, 能看 到 富士山 了。」

(19) のように、知覚反応を表す動詞に後接する場合、「てくる」の「認知的用法」は、認知範囲において「有→無」という知覚作用が働くことを意味し、そして何らかの結果に至った、という完成態を示す役割を果たす。

この場合に、対応関係を持たないのは、日本語の「てくる」で表す知覚作用の全過程が、中国語の知覚動詞に内在する方向性で表わせるからである。したがって、最後に獲得する知覚結果の動詞だけで、全過程をも表わせ、“来”を追加する必要がない。



また、(19)のように、中国語の知覚動詞の補助成分としては、“来”ではなく、“到”が多用さる。なぜなら、“到”は「至る」を意味する結果補語であり、“来”の代わりに、アスペクト・マーカ―の役割を果たすからである。

## 5. 中国人日本語学習者の習得支援

### 5-1 調査内容及びその結果

#### ①使用数量の比較調査

調査項目：「ていく・てくる」

調査手段：JCK 作文コーパス

調査対象：日本人母語話者と中国人日本語学習者

調査結果：

調査項目	日本人母語話者使用件数 (件)	中国人日本語学習者使用件数 (件)
「ていく」	127	55
「てくる」	146	95
総計	273	150

#### ②使用実態のアンケート調査 (使用率・非用率)

調査項目：「ていく・てくる」の非用率

調査手段：アンケート調査

調査対象：日本に在住する中国人日本語学習者 30 名

問題形式：

問：没有时间了，乘计程车去图书馆吧。

時間がないからタクシーに（**乗りましょう**・**乗っていきましょう**）。

調査結果：

調査項目	A「プロトタイプ用法」 「空間的移動用法」	B「拡張用法Ⅰ」 「時間的アスペクト用法」	C「拡張用法Ⅱ」 「認知的用法」
「ていく」 の非用率	63.3%	46.7%	76.7%
「てくる」 の非用率	35%	20%	35.6%

### 5-2 教育現場と習得への提言

以上の調査結果によると、中国人日本語学習者には、確かに非用の状況が少なからず存在していると分かる。第4章で誤用分析のために行った日中対照の結果をも踏まえて、また第二言語習得に関する先行研究も参考にした上で、「ていく・てくる」の習得に対して、次のように提言する。

- ①導入の順序の変更
- ②適当な母語提示を利用
- ③両言語の特徴に関して知るだけでなく、理解する。
- ④教育現場で図表の多用

## 6. まとめ

中国人日本語学習者が「ていく・てくる」の補助動詞用法を勉強する際、適切な理解や運用のためには、文法項目としての使い方を習得することが一番大事である。そのために、目標項目が持っている各用法の特徴のみならず、その間に存在する相互関係をも捉える必要がある。

特に、第二言語としての日本語教育の現場において、上述したような母語干渉からの誤用や非用を避けるため、日本語における各用法の関係のほか、中国語における類似表現との繋がりをよく洗い出すことも有効な手段であると考えられる。

本研究では、「ていく・てくる」を対象に、色々な面から日中両言語について対照分析を試みた。それによって日中両言語の差異を明らかにされた。第二言語の文法項目を指導する際の、適切な母語訳の提示などに役立つと期待される。第二言語を勉強する・指導する際に、いかに日中対照分析の結果を利用し、母語による干渉を減らしていけるか、そのためにどのようにして適切な提示を行うかについては、今後も続けて検討されていくべきである。

## 参考文献

- 高橋太郎 (2002) 「してくるの意味・用法」『日本語と中国語のアスペクト』日中対照言語学会編, 白帝社, pp.15-40.
- 吉川武時 (1973) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房, pp.157-327.
- 近藤泰弘 (1985) 「補助動詞「てゆく」「てくる」の用法—<視点の補助動詞>研究序説—」『日本女子大学紀要文学部』34, pp25-34. 日本女子大学
- 杉村博文 (1982) 「方向補語「下」「下来」「下去」解説」『日本語・中国語対応表現用例集 VI』日本語と中国語対照研究会編, pp.73-89.
- 加藤晴子 (2006) 「中日対訳コーパスにみる“来”“去”と「くる」「いく」の対応状況」『明海大学大学院応用言語学研究科紀要応用言語研究』8, pp.87-104. 明海大学
- 加藤晴子 (2011) 「中日両語の叙述の視点と動作の方向性」『横川伸教授古希記念日中言語文化研究論集, 古希記念論集編集委員会編』白帝社, pp.70-83.

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程)

## 2016 年度研究大会

2016 年度研究大会は、以下の通りである。

- (1) 日時：2016 年 12 月 10 日（土）
- (2) 時間：13 時～18 時
- (3) 場所：埼玉大学教養学部 21 番教室
- (4) 研究大会の進行：口頭発表（1 名の発表時間＝発表 35 分＋質疑 25 分）

- ・発表①：中村信督（埼玉大学教養学部生）  
「題名の歌詞への関連の仕方」  
鈴木愛海（埼玉大学教養学部生）  
「使役分析の系譜—生成意味論、認知意味論、極小理論をへて—」
- ・発表②：金聖実（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）  
「日本語と韓国語のフィラーの対照研究—「まあ」と「欸」を中心に—」
- ・発表③：戴紅（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）  
「日本語類別詞の「有生」と「無生」に関する考え」
- ・発表④：田村隆夫（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）  
「主要部内在型関係節と主要部の先行提示—主要部外在型関係節との語用論的比較のための一助として—」
- ・発表⑤：金善花（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）  
「次元形容詞「深い」の意味に関する日中対照」

## 日本語と韓国語のフィラーの対照研究

### —「まあ」と「ㄱ」を中心に—

金 聖実（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）

本研究では、話し言葉を研究対象とし、その内、談話中に現れるフィラーを検討する。日本語の文法とほぼ同じ形式を用いる韓国語を対象とし、主に、「まあ」と「ㄱ」を中心に対照することによって、両者の相違点を探ることを目的としている。

本研究では、日韓両言語においてのリオ・オリンピックのニュースと大学で学ぶために必要な日本語「アカデミック・ジャパニーズ」（中級、中上級、上級）を研究資料として扱う。「まあ」と「ㄱ」は各言語において、上級レベルで習得できるものであり、その機能面から見ると、類似性が高いものの、それらの位置付けから考察すると、「まあ」は文末には現れないのに対し、「ㄱ」は文頭、文中、文末いずれにも出現可能である。また、「まあ」と「ㄱ」は平叙文では対応関係を、特殊文（命令、勧誘、依頼文）では、対応関係を持つ。それは、「まあ」は「とりあえず性を帯びた見解表示」というスキーマを持ち、「ㄱ」は「副次情報付加を用いる見解表示」というスキーマを用いるからである。

## 日本語類別詞の「有生」と「無生」に関する考え

戴 紅（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）

松本（1991）では、日本語の類別詞の体系における最も基本的な意味的対立は animacy によるものであり、類別詞は有生のものと、無生物に用いるものに分類されると述べられ、飯田（1999）では、有生であるかどうかについて、生きているものとして話者が捉えていれば、生きていないぬいぐるみ等も有生物としての助数詞で数えることができると述べられている。

「有生」は無生物に対する「生物」の意味なのか、「生きている」の意味なのか、という疑問を持ち、コーパスの用例を考察した。動く意識したものが存在する意で「いる」を用い、意識しないものが存在する意で「ある」を用いるという使い分けに類似して、「大鯉を一本地役人宅に届けた」のように、類別詞の「有生」と「無生」も動いているかどうか注目する日本語の表現の特徴であり、類別詞の分類をする際に、有生のものと無生物の対立にならないのではないかとすることを明らかにしたい。

## 主要部内在型関係節と主要部の先行提示 —主要部外在型関係節との語用論的比較のための一助として—

田村 隆夫（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）

本稿は、日本語の主要部内在型関係節の出現環境に於いて、提示機能を持つと考えられる体言止め表現が先行する場合が散見され、このことが通常的主要部外在型関係節とは異なる主要部内在型関係節の語用論上の特質に関わることを明らかにするものである。谷（2012）では、英語には節的意味を表す関係節付き名詞句が散見され、これは提示機能を持つ述語名詞関係節構文からの拡張もしくは発展であるとされている。SVO 言語である英語と SOV 言語である日本語との間には語順の制約に起因する語用論上の相違が生じるが、それは関係節構造に関しても当てはまる。英語の節的意味を表す関係節付き名詞句は、1 文内の先行する断定部分に後続して新たな断定を加える機能を果たしていると考えられるが、日本語の場合には、これと類似の現象が従属節である主要部内在型関係節と後続文である主節に於いて生じ、さらに提示機能を持つと考えられる表現部分がしばしば両者に先行する。

## 次元形容詞「深い」の意味に関する日中対照

金 善花（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）

日本語の次元形容詞「深い」と中国語の次元形容詞“深（shēn）”には、同じ用法もあれば、違う用法も見られる。例えば、日本語の「深い」には、「深い森」「深い霧」のような用法が見られるが、中国語の“深”には見られない。また、中国語の“深”には、“庭院深深（深い庭）”“深宮（深い宮）”のような用法が見られるが、日本語の「深い」には見られない。

このような用法の違いが見られる背後には、「深い」と“深”の意味の捉えかたに違いが存在する可能性がある。しかし、今までの「深い」と“深（深い）”に関する研究では、言語的な知識の記述と分析が中心になっており、言語主体の経験に基づく空間認知に関する研究は少ない。

そこで、本研究では、アンケート調査を通して「深い」と“深”の認識実態を分析し、認知言語学のプロトタイプ理論、容器メタファーの概念を利用して、「深い」と“深（深い）”のプロトタイプの意味を認定してから、空間認知における意味の捉え方や認知モード、動機付けについて考えてみたいと思う。

# さいたま言語研究会

## 【会則】

### 1. 名称

さいたま言語研究会と称する。

### 2. 目的

本研究会は、埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし、理論言語学言語教育実践まで、幅広く学術情報を発信する。

### 3. 活動内容

- (1) 年に1回（12月）、研究大会を開催する。
- (2) 年に1回（3月）、オンラインジャーナル『さいたま言語研究』を発行し、ホームページで公開する。
- (3) 年に数回、勉強会を開催する。

### 4. 運営委員（2016年度）

- (1) 顧問：小出慶一、仁科弘之
- (2) 世話役：金井勇人、川野靖子
- (3) 幹事：河正一

## 【入会の手続き】

1. 入会希望の方は「入会申し込み」と明記した上、メールで以下の情報をお知らせ下さい。
  - (1) 名前（漢字及びローマ字）
  - (2) 住所
  - (3) 電話番号
  - (4) メールアドレス
  - (5) 所属（学生ではない場合は勤務先）
  - (6) 専攻分野
2. 本研究会では、年会費の徴収は行いません。ただし、研究大会の開催時に、参加者から参加費（500円）をいただきます。

# 『さいたま言語研究』

## 【投稿規定】

1. 投稿原稿の種類は、以下の3つとする。
  - (1) 研究論文：独創性と新規性があり、言語研究の進展に貢献する実証的もしくは理論的研究（12頁程度）。
  - (2) 研究ノート：言語研究を活性化させる契機となりうる知見や問題提起など（10頁程度）。
  - (3) 研究資料：言語研究に関する資料や情報など（8頁程度）。
2. 応募締切：毎年2月28日
3. 提出先：saitamagengoken@gmail.com
4. 結果：査読・検討の上、投稿者には3月10日までに結果を連絡する。
5. 発行：毎年3月31日

---

## さいたま言語研究 第1号

発行日	2017年3月31日
発行者	さいたま言語研究会
Homepage	<a href="https://www.saitamagengoken.org/">https://www.saitamagengoken.org/</a>
E-mail	<a href="mailto:saitamagengoken@gmail.com">saitamagengoken@gmail.com</a>



# *Saitama Gengo Kenkyu*

*vol.1*

*2017. 3*